

第 1 章 府中市の現況と課題

第1章 府中市の現況と課題

1 広域的位置・沿革

①広域的位置

本市は、広島県の東南部内陸地帯に位置します。

市域は、東西 17.13km、南北 25.54km、面積 195.75 km²、東は福山市、西は尾道市及び世羅町、北は三次市、庄原市及び神石高原町に隣接しています。

○府中市位置図



②沿革

現在の本市は、昭和 29（1954）年に府中町・広谷村・国府村・栗生村・岩谷村・下川辺村の 6 町村が合併し、府中市制を施行しました。その後、昭和 31（1956）年に河佐村・諸田村及び御調町三郎丸地区を編入し、昭和 50（1975）年には協和村、平成 16（2004）年には上下町を編入合併し、現在の市域となっています。

土地利用については、旺盛な企業活動の沃野として昭和 40 年代に市内の平地のほとんどを市街化区域に繰り入れ、かつ工業系の土地利用を想定した準工業地域を大幅に採用したことに起因し、今日まで備後地域における内陸工業都市としての地位を築いています。昭和 55（1980）年には人口増加がピークに達し、高木・中須町周辺の市街化、見晴団地、緑が丘団地等の完成等を経て、現在の市街地規模にまで発展しています。

また、本市は田園都市として発足後、伝統産業の育成に努め「府中家具」、「鋳造品」、「備後かすり」、「府中みそ」等時代の変化に対応しながら地場産業と共に発展しました。

歴史的には、市街地において、律令時代の頃、備後国府が置かれていたと伝えられています。多くの遺構・遺物が出土しており、備後国府の解明に向けて発掘作業が続けられています。また、上下町は幕府直轄地として栄え、白壁の町並みや石州街道等貴重な遺産が多くあります。

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

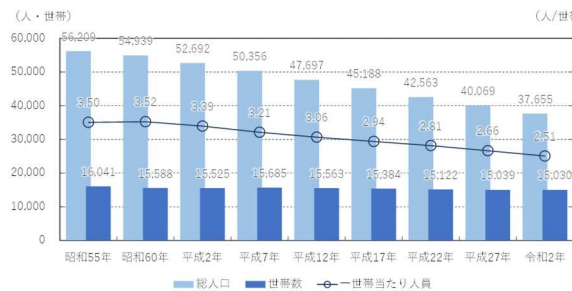
実現化方策

2 人口・世帯数

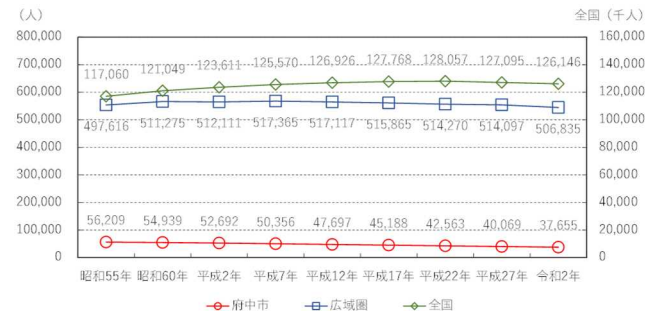
(1) 人口・世帯数

- ・人口の減少ペースが加速しています。
- ・広域市町村圏において、福山市への人口集中が続いています。
- ・世帯数は減少傾向ですが、単身世帯（特に高齢単身世帯）が増加しています。

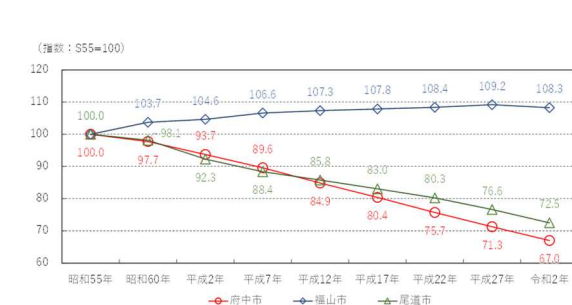
○府中市の人口・世帯数の推移



○府中市・広域圏・全国の人口の推移



○府中市・福山市・尾道市の人口の推移



○世帯数の推移

(核家族世帯、単身世帯、高齢単身世帯)



※令和2（2020）年時点の行政区画での数値

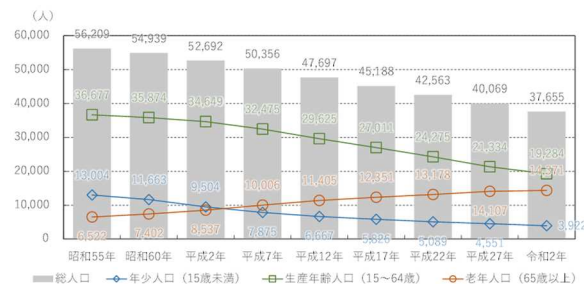
※広域圏は福山・府中広域市町村圏（福山市、府中市、神石高原町）

資料：国勢調査

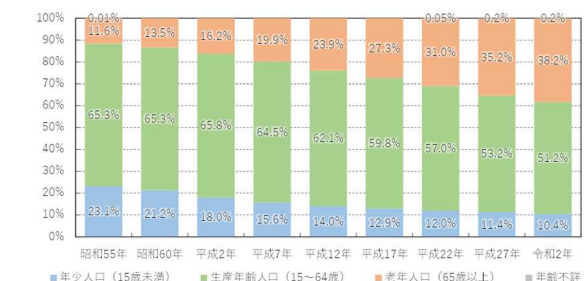
(2) 年齢別人口

- ・少子高齢化が急速に進行しています。

○年齢別人口の推移



○年齢別人口構成比の推移



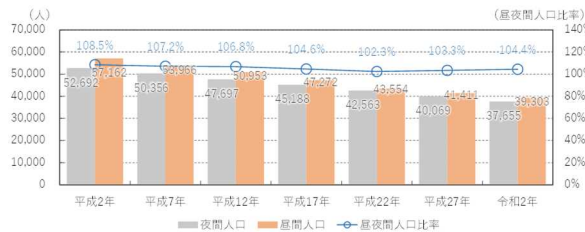
※令和2（2020）年時点の行政区画での数値

資料：国勢調査

(3) 通勤・通学

- ・昼夜間人口比率は流入超過（※1）が続いていますが、流入人口の減少と流出人口の増加により低下傾向にあります。
- ・福山市との結びつきが強く、福山市から多くの人が本市に通勤・通学しています。

○昼夜間人口の推移



○流入・流出人口の推移 ※2

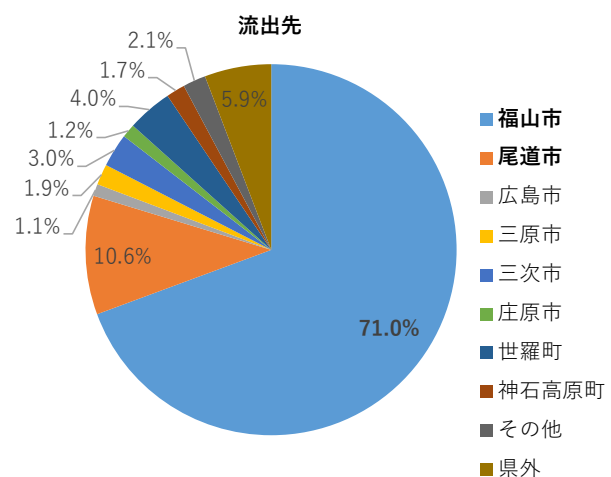
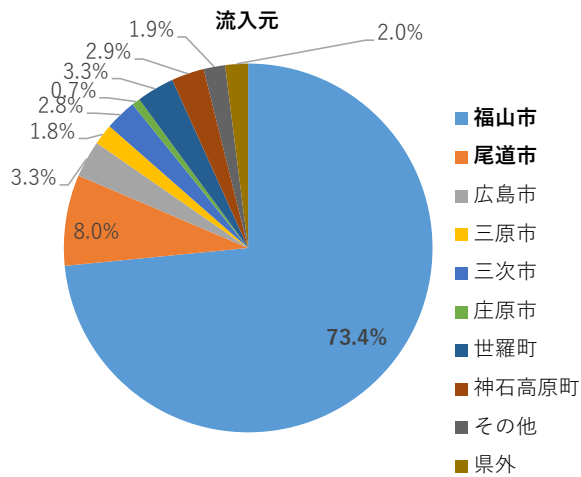


※1 昼夜間人口比率が100%を超えると流入超過、100%を下回ると流出超過となります。

※2 平成12（2000）年以前の流入・流出人口は旧府中市・旧上下町間の移動を除く

資料：国勢調査

○流入元・流出先（令和2（2020）年）



資料：令和2年国勢調査

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

(4) 人口分布

はじめに

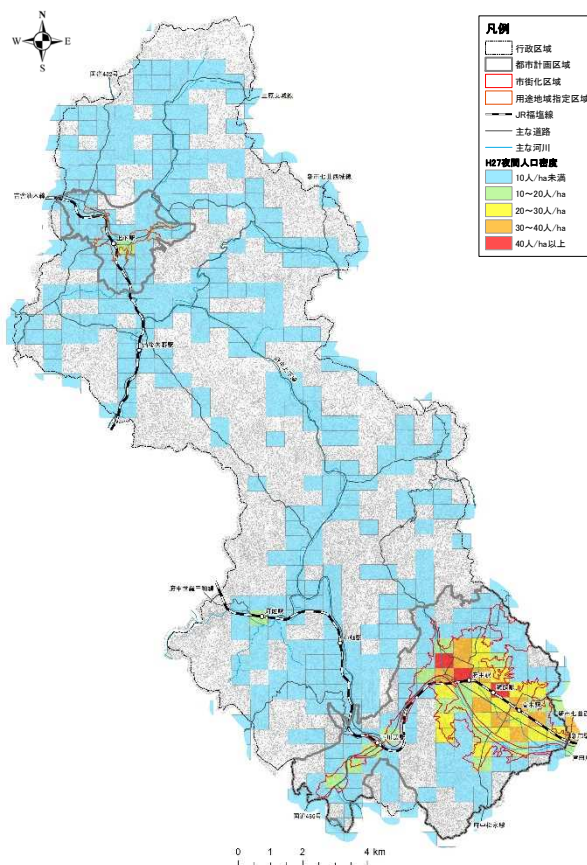
- ・ 南部の JR 福塩線沿線に人口が集積しています。
- ・ 府中駅周辺から鶴飼駅周辺にかけて事業所等が集積し、各地から人口が流入しています。
また、上下駅周辺が本市北部における通勤・通学地となっています。
- ・ 南部の市街地では、市街地の分散・低密度化が進行しています。
郊外の集落地では、人口減少率が高い状況が続いており、今後限界集落の発生が懸念されます。

第1章

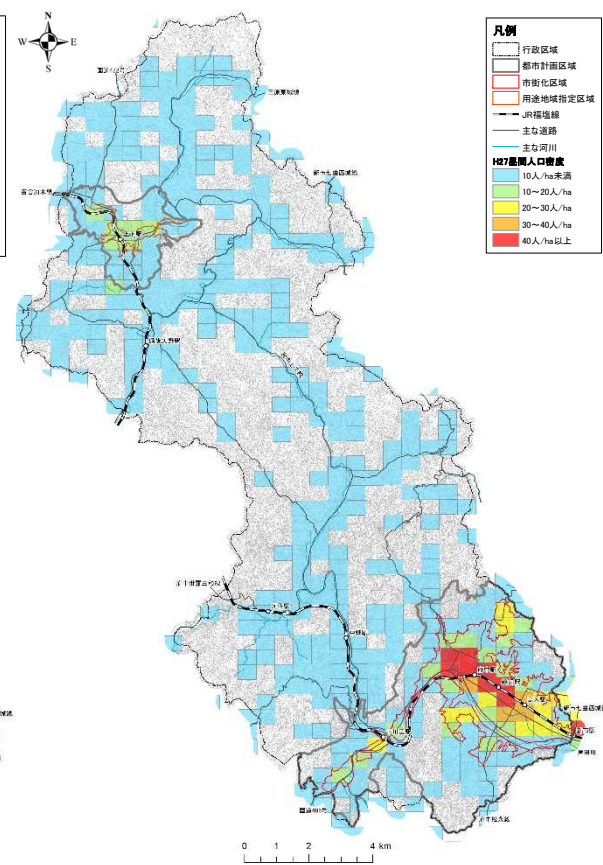
府中市の現況と課題

○夜間人口の分布（500mメッシュ）

○昼間人口の分布（500mメッシュ）



資料：国勢調査



資料：日本統計センター

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

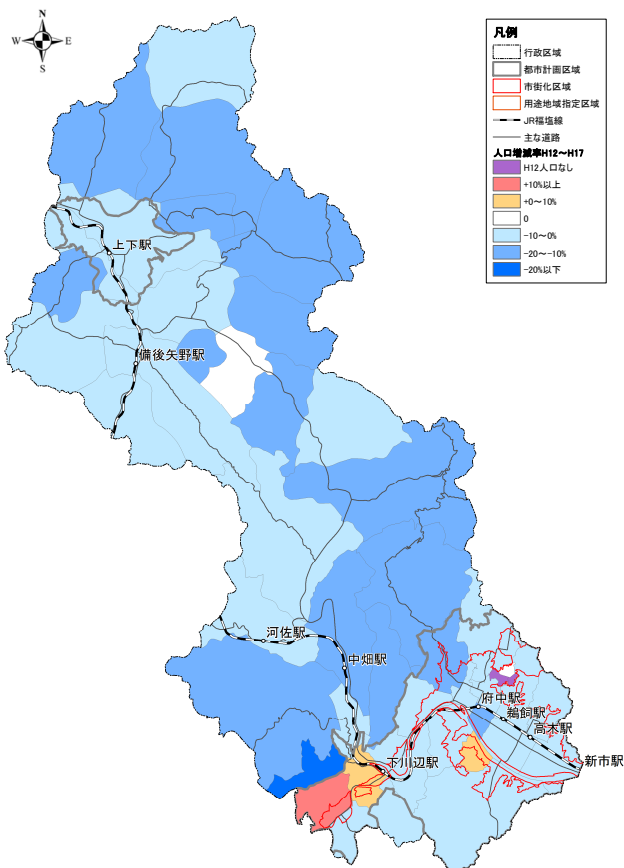
第4章

地域別構想

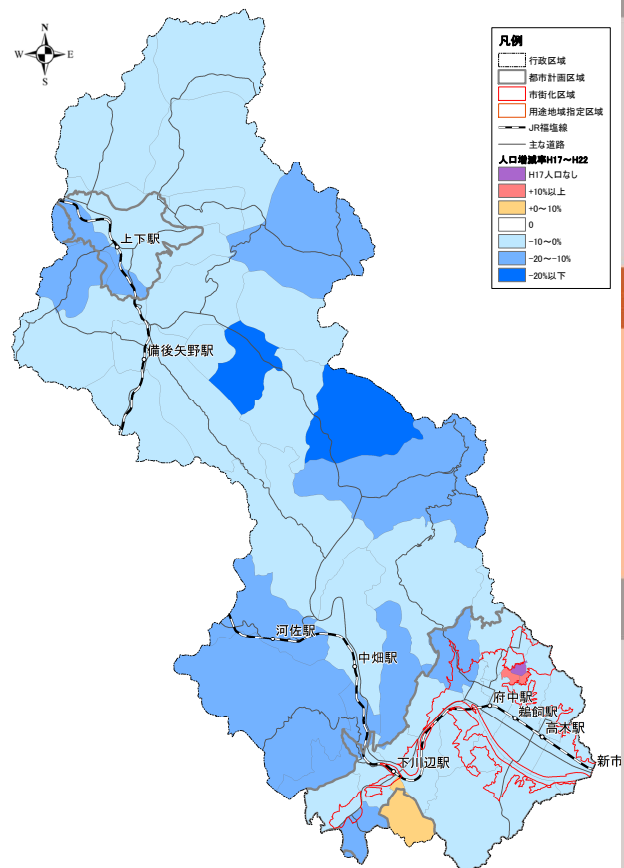
第5章

実現化方策

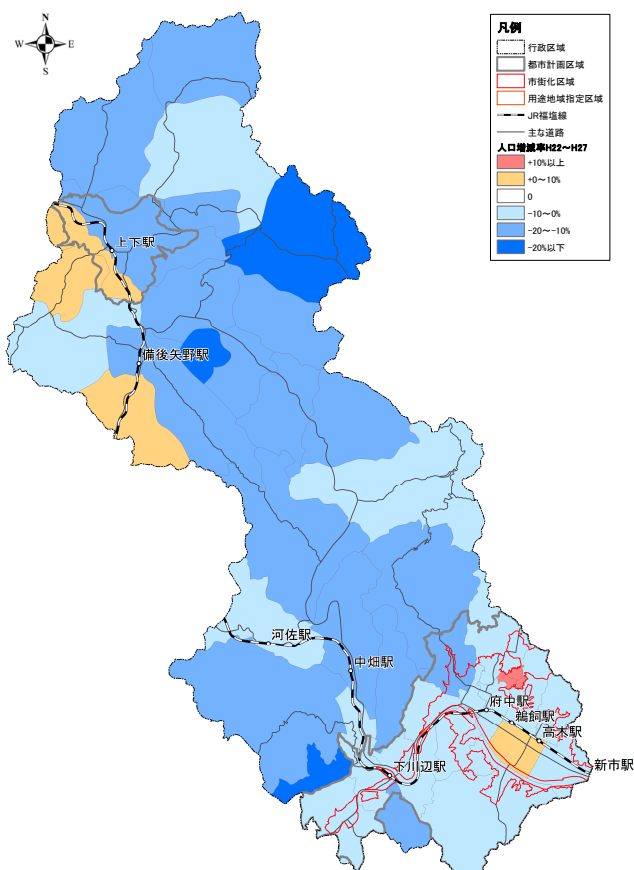
○町丁目別人口の推移（平成12年→平成17年）



○町丁目別人口の推移（平成17年→平成22年）



○町丁目別人口の推移（平成22年→平成27年）



資料：国勢調査

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

3 産業

はじめに

(1) 事業所数・従業者数

- ・事業所数、従業者数ともに減少傾向にあります。
- ・本市には規模の大きい製造業が立地していますが、第3次産業の比重が高まる傾向にあります。

第1章

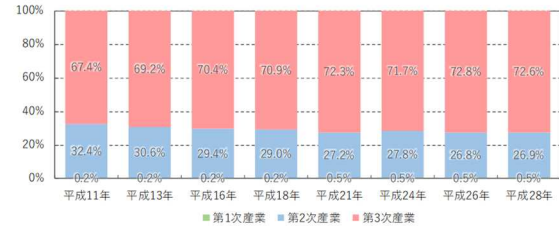
府中市の現況と課題

○産業別事業所数の推移＜民営事業所＞



○産業別事業所数構成比の推移

＜民営事業所＞



第2章

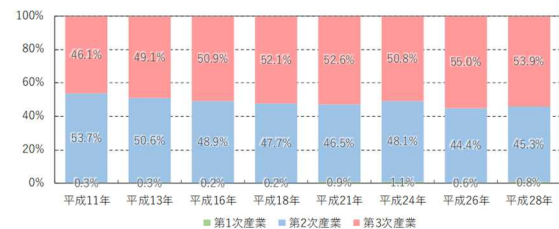
目指すべき都市像

○産業別従業者数の推移＜民営事業所＞



○産業別従業者数構成比の推移

＜民営事業所＞



第3章

都市整備の方針

※令和2（2020）年時点の行政区域での数値、また、構成比は分類不明の産業を除く

資料：事業所・企業統計調査、経済センサス基礎調査（H21、H26）、経済センサス活動調査（H24、H28）

(2) 工業

- ・事業所数は減少していますが製造品出荷額等が増加に転じる等生産性は向上しています。
- ・「繊維工業」（備後絣等）、「木材・木製品製造業」（桐箱等）、「家具・装備品製造業」（府中家具等）の減少が顕著であり、古くからの地場産業が衰退傾向にあります。

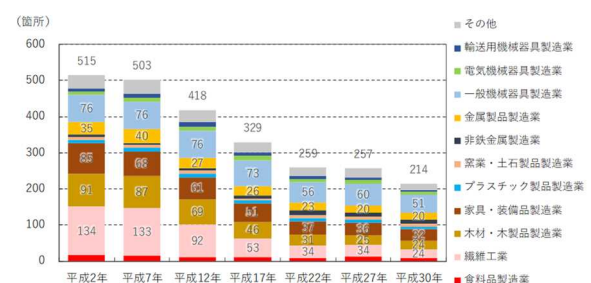
第4章

地域別構想

○事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移



○産業中分類別事業所数の推移



第5章

実現化方策

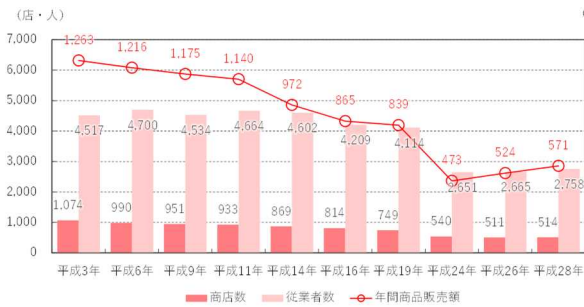
※令和2（2020）年時点の行政区域での数値

資料：工業統計調査、経済センサス活動調査（H27）

(3) 商業

・商店数は減少傾向にありますが、従業者数・年間商品販売額は近年増加しており、回復傾向にあります。

○商店数・従業者数・年間商品販売額の推移

○売場面積・店舗当たり売場面積の推移
＜小売業＞

※令和2（2020）年時点の行政区域での数値

資料：商業統計調査、経済センサス活動調査（H24、H28）

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

4 土地・建物利用

(1) 土地利用

●土地利用の分布

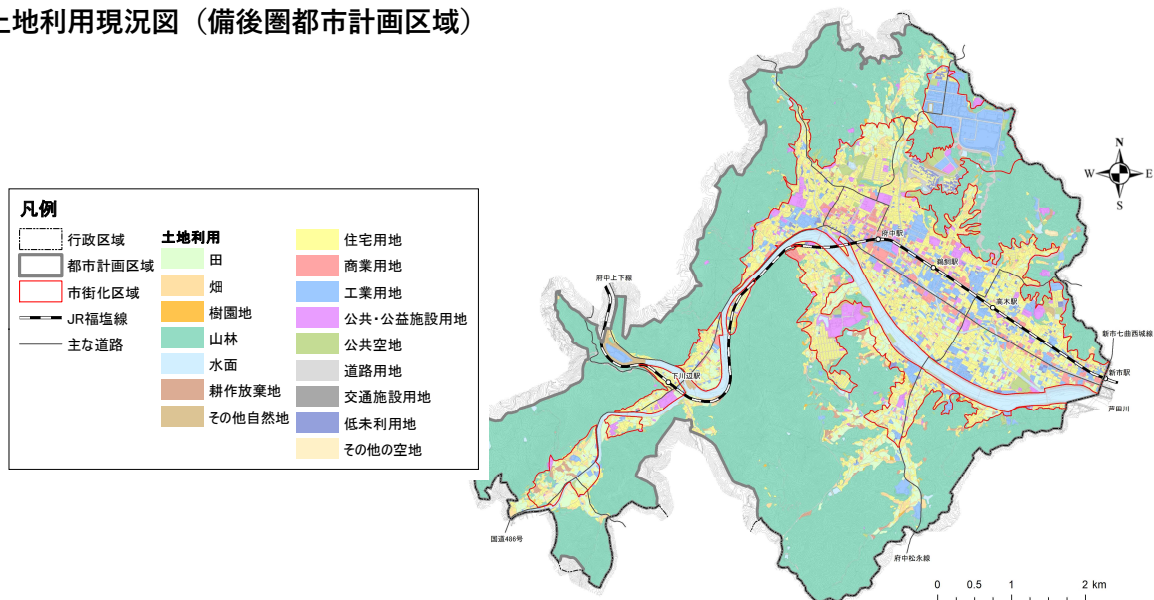
＜備後圏都市計画区域＞

- ・ JR 福塩線沿線や国道 486 号沿道の市街地は、住・商・工が混在した土地利用となっています。
- ・ 商業用地は、府中駅周辺や国道 486 号沿道に多く立地しています。
- ・ 工業用地は、北部に大規模な工業団地が形成されています。
- ・ 東部や国道 486 号と芦田川の間の市街地は、農地と住宅地が混在した土地利用となっています。

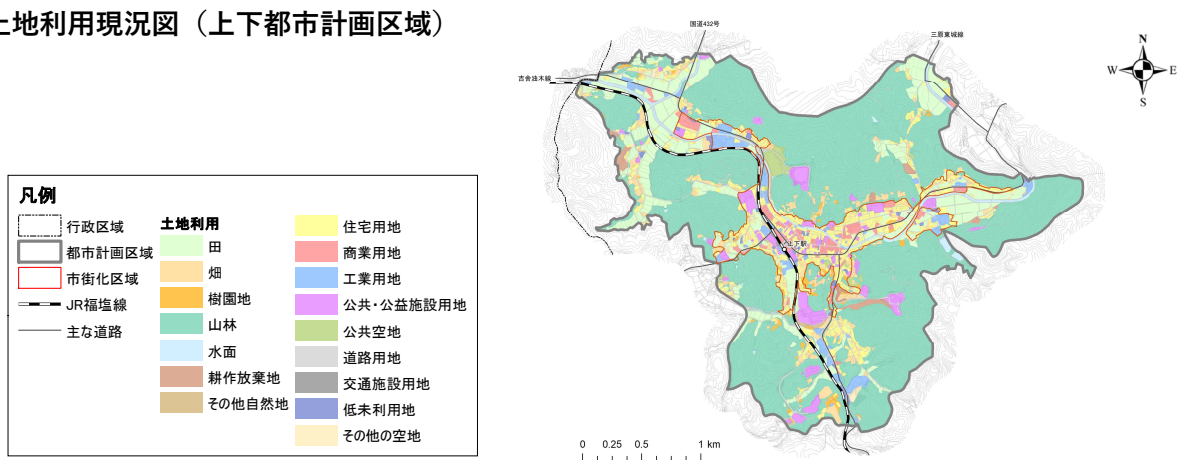
<上下都市計画区域>

- ・上下駅の東側に、住宅用地と商業用地が混在した市街地が形成されています。
- ・用途地域の外縁部は、住宅用地、農地、工業用地が混在しています。

○土地利用現況図（備後圏都市計画区域）



○土地利用現況図（上下都市計画区域）



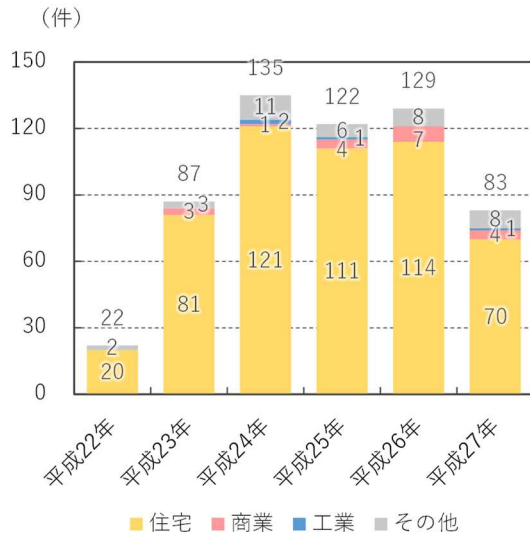
資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

5 市街化動向

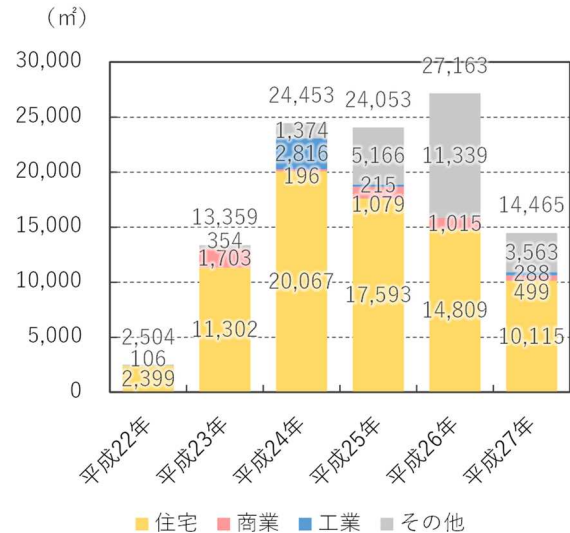
(1) 新築

- ・新築件数・延床面積ともに増加傾向にあり、大部分を住宅が占めています。
- ・商業は国道 486 号や都市計画道路の沿道、工業は高木駅周辺に多く、特に国道 486 号と都市計画道路 栗柄広谷線（南北道路）の交差部付近に集中しています。

○新築件数の推移

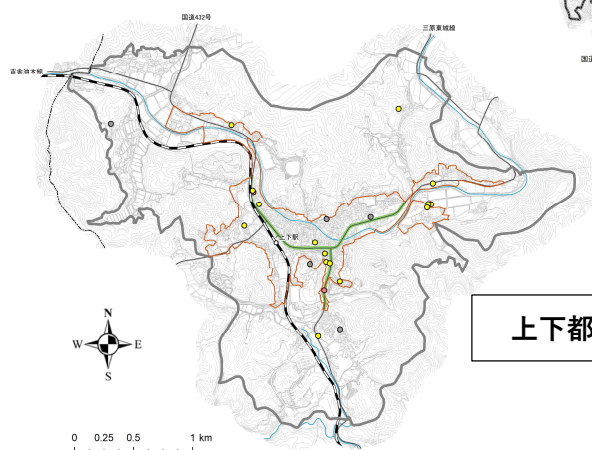
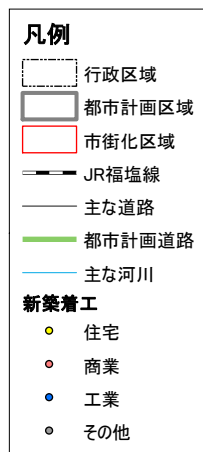


○新築延床面積の推移

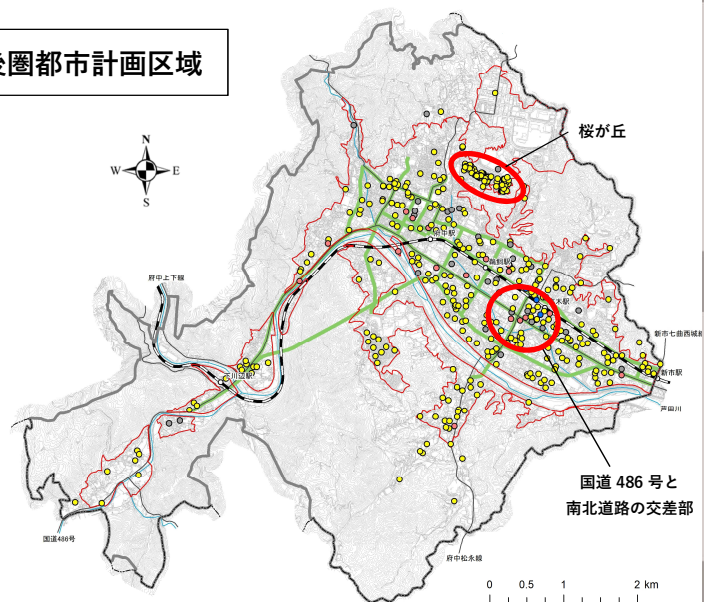


資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

○新築の分布



備後圏都市計画区域



資料：平成 29 年度都市計画基礎調査

序論

はじめに

第 1 章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

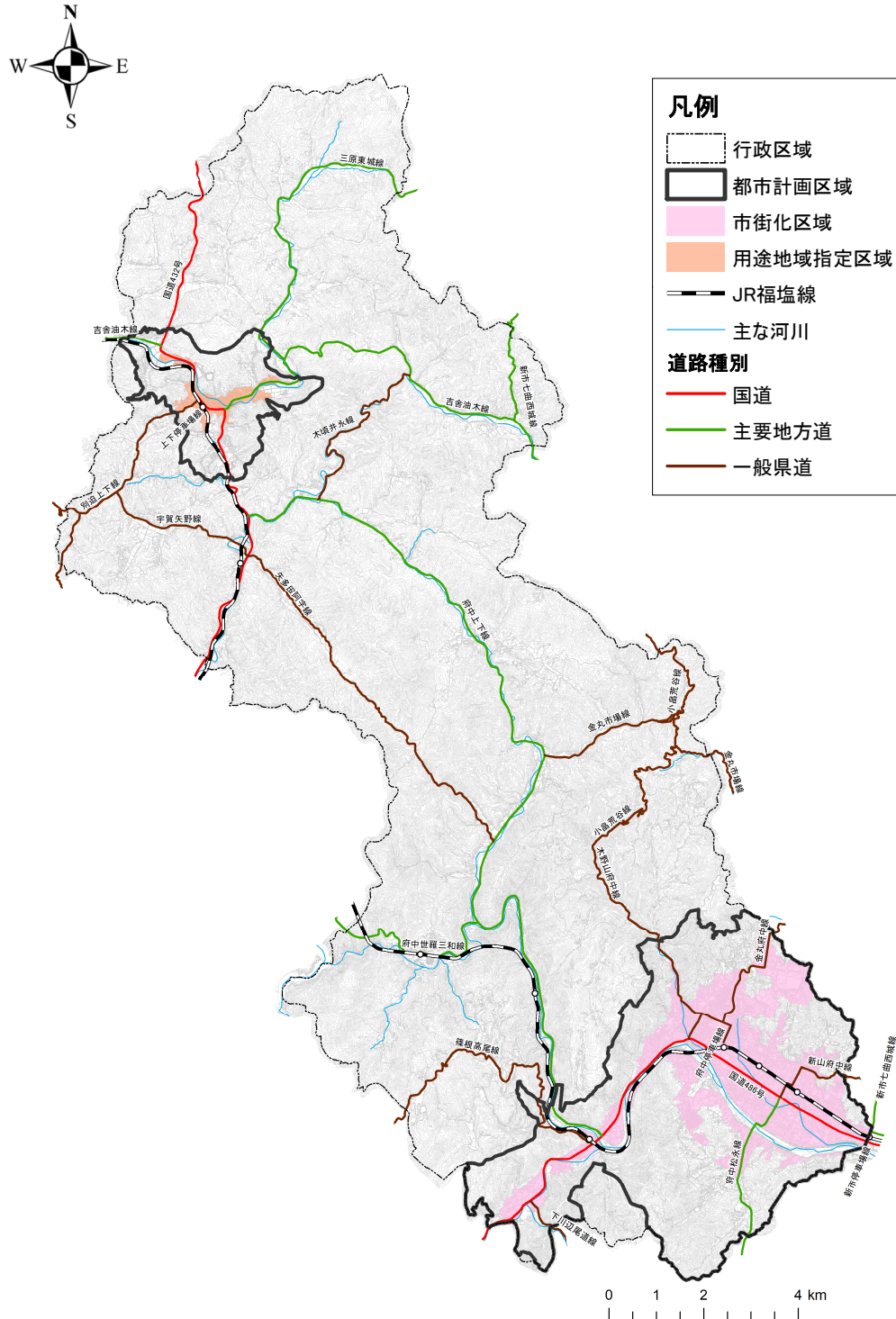
6 道路・交通

はじめに

(1) 道路

・国道 486 号、国道 432 号、主要地方道府中上下線、主要地方道府中松永線を主とした道路網が形成されています。

○道路網図



第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

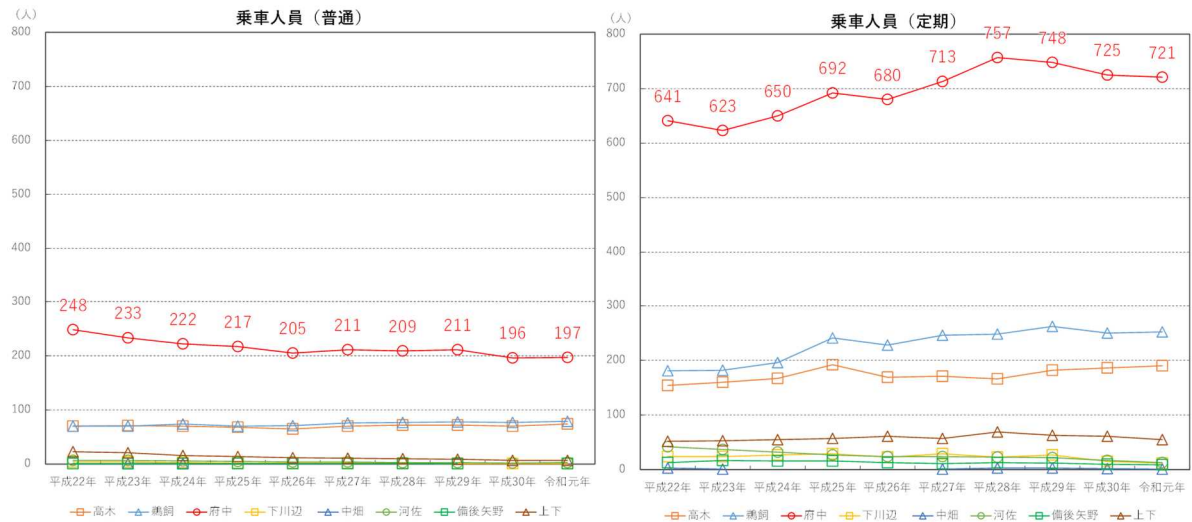
実現化方策

(2) 公共交通

●鉄道

- ・福山駅～府中駅間に比べ、府中駅～上下駅間の運行本数が少ない状況です。
- ・定期での乗車人員は一定の利用者数がみられるため、通勤・通学等における重要な交通手段となっています。

○駅別旅客乗車人員（1日平均）の推移



資料：府中市統計要覧

○JR福塩線の運行本数

時	福山駅～府中駅		府中駅～上下駅	
	府中方面	福山方面	上下方面	府中方面
5時	1	2	1	-
6時	2	2	-	1
7時	2	2	1	1
8時	3	2	-	-
9時	2	2	-	-
10時	2	1	-	-
11時	1	2	-	-
12時	2	1	-	-
13時	1	1	-	-
14時	1	1	-	-
15時	1	2	1	1
16時	2	2	-	-
17時	2	2	1	1
18時	2	2	-	-
19時	3	2	1	-
20時	2	1	-	1
21時	1	-	-	-
22時	1	1	-	-
23時	1	-	-	-
合計	32	28	5	5

資料：JR時刻表

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

●バス

はじめに

- ・国道486号を通る幹線路線のほか、周辺地域や市内各地を結ぶ路線が運行されています。
- ・高速バスは、本市と広島市、東京・大阪・神戸を結ぶ路線が運行されていますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴い神戸ライナー、エトワールセト号が運休となっています。

○路線バス運行状況

単位：本

系統	方面		平日	土	日・祝
福山・新市・府中・市・如水館線	府中・福山間	府中	30	18	18
		福山	30	18	18
	金丸・如水館間	如水館	1	1	0
		金丸	1	1	0
	福山・如水館間	如水館	1	1	1
		福山	2	0	1
	福山・市間	市	8	6	6
		福山	8	6	6
道の駅びんご府中・本山・金丸線	本山・金丸	本山経由	4	3	3
		桜が丘2丁目経由	3	1	1
	道の駅びんご府中	本山経由	4	3	3
		桜が丘2丁目経由	3	1	1
道の駅びんご府中・上下線	道の駅びんご府中		6	6	4
	上下		6	6	4
土生栗柄線	道の駅びんご府中		6	4	4
	府中市民病院		6	4	4
南宮台団地線	道の駅びんご府中→府中駅前		2	0	0
	府中駅前→道の駅びんご府中		1	0	0
ぐるっとバス	右まわり		13		0
	左まわり		11		0

資料：中国バス時刻表（中国バス WEB サイト）

第2章

目指すべき都市像

第3章

○高速バス運行状況

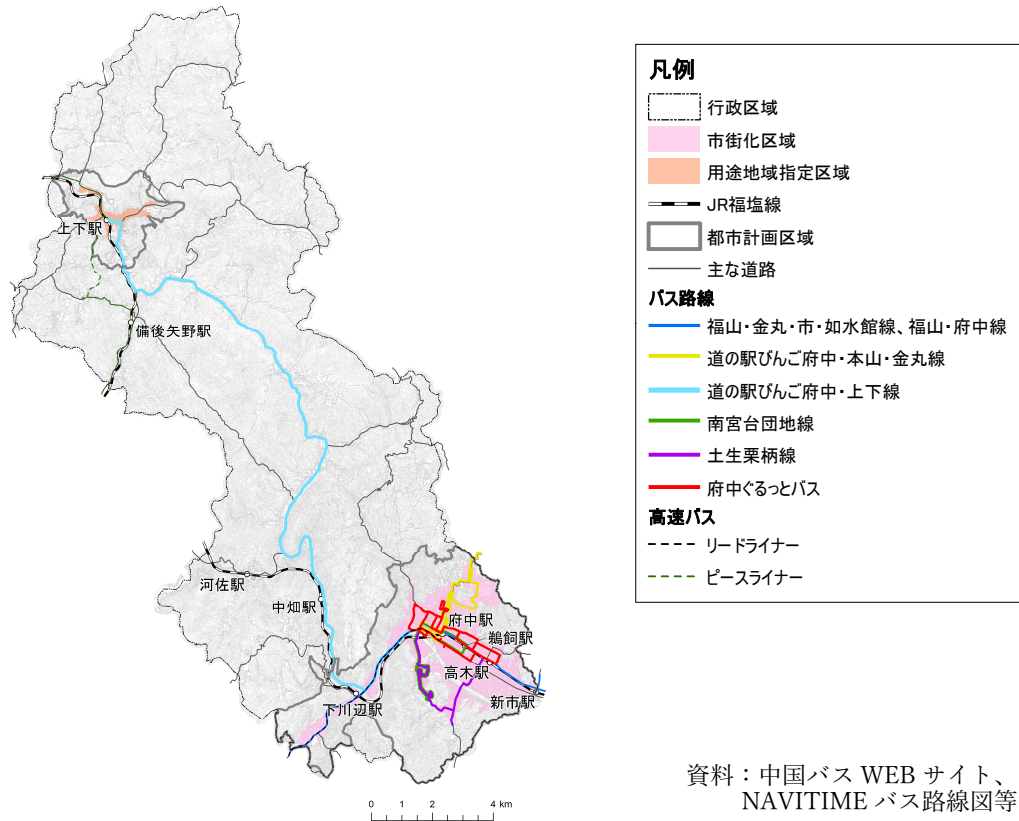
路線名	事業者名	運行経路	運行本数	備考
リードライナー	中国バス 広交バス	広島バスセンター～府中営業所～道の駅びんご府中	4	
		道の駅びんご府中～府中営業所～広島バスセンター	4	
ピースライナー	中国バス 広交バス	広島バスセンター～上下駅前～甲奴駅前	4	
		甲奴駅前～上下駅前～広島バスセンター	4	
神戸ライナー	中国バス	府中営業所～福山駅～神戸ポートタワー前	2	令和2（2020）年4月13日～新型コロナウイルス感染拡大に伴う運休（令和5（2023）年3月1日時点）
		神戸ポートタワー前～福山駅～府中営業所	2	
びんごライナー	中国バス	府中営業所～福山駅～湊町バスターミナル（大阪）	2	令和5（2023）年3月4日より、福山～大阪間のみ運行再開（令和5（2023）年3月1日時点）
		湊町バスターミナル（大阪）～福山駅～府中営業所	2	
エトワールセト号	中国バス 小田急バス	三原駅前～府中営業所～新宿高速バスターミナル	1	令和4（2022）年8月15日～新型コロナウイルス感染拡大に伴う運休（令和5（2023）年3月1日時点）
		ハイアットリージェンシー東京～府中営業所～三原駅前	1	

資料：中国バス WEB サイト、広交バス WEB サイト

第5章

実現化方策

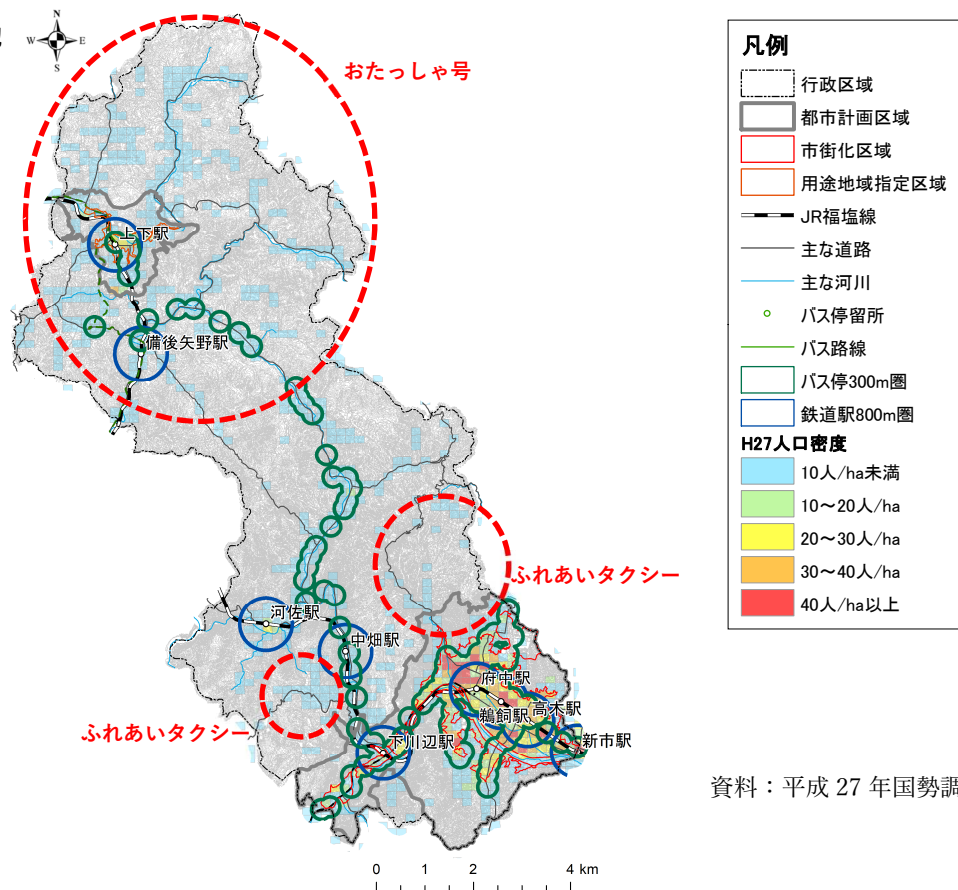
○バス系統図



●公共交通空白地

- ・市街化区域や用途地域内は、概ね公共交通の誘致圏内となっています。
- ・誘致圏外の地域には、デマンド型乗合タクシーが運行されています。

○公共交通空白地



序論

7 災害

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

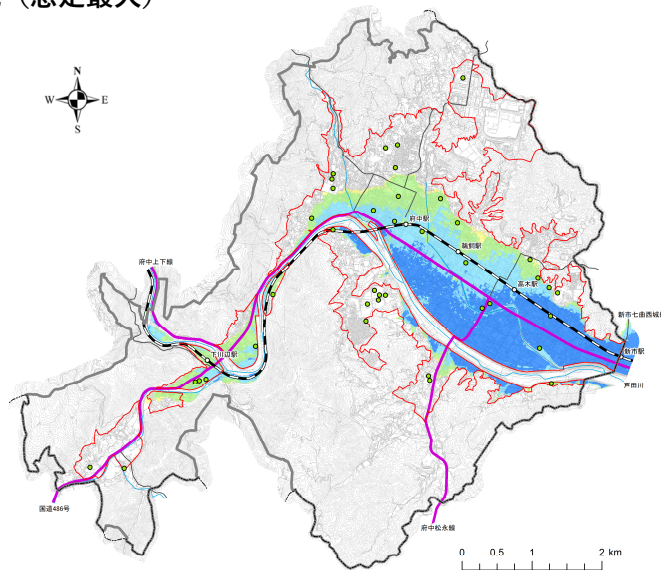
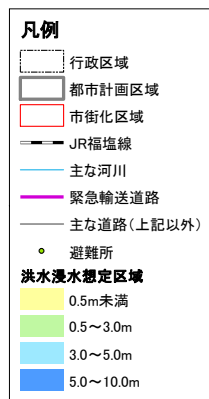
第5章

実現化方策

(1) 災害危険区域

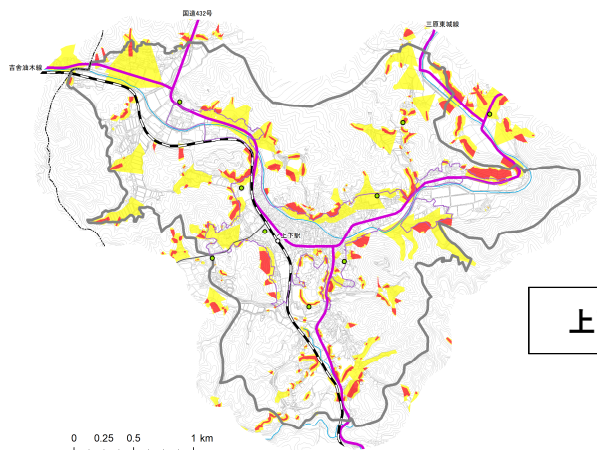
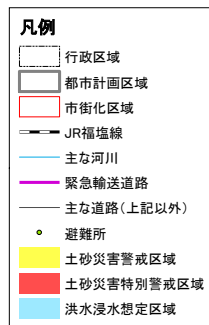
- ・南部の市街地は芦田川の氾濫により甚大な被害を受けると想定されています。
- ・土砂災害の危険箇所が市内に多数分布しており、家屋等への直接の被害のほか、道路が寸断されることにより孤立集落が多数発生する危険性があります。
- ・避難所や緊急輸送道路が被災することで、円滑な避難活動や救援・救助活動等が実施できなくなることも想定されます。

○芦田川の洪水浸水想定区域（想定最大）

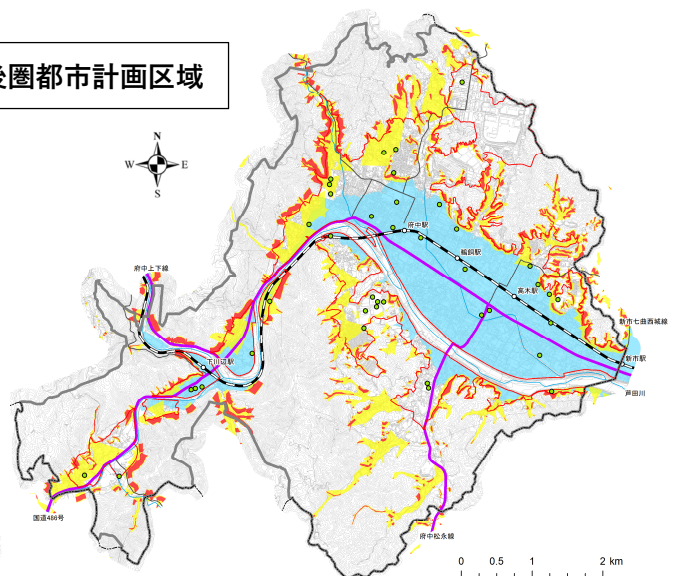


資料：国土数値情報、府中市 WEB サイト、広島県緊急輸送道路ネットワーク計画

○災害危険区域の状況



備後圏都市計画区域



上下都市計画区域

資料：国土数値情報、府中市 WEB サイト、広島県緊急輸送道路ネットワーク計画

8 市民による府中市の現況認識と課題（市民アンケート）

【実施概要】

- ・調査日程：令和3(2020)年3月25日～4月8日・調査対象：府中市在住の3,000世帯
- ・実施方法：郵送配布・郵送回収
- ・回収部数：1292票（43.1%）

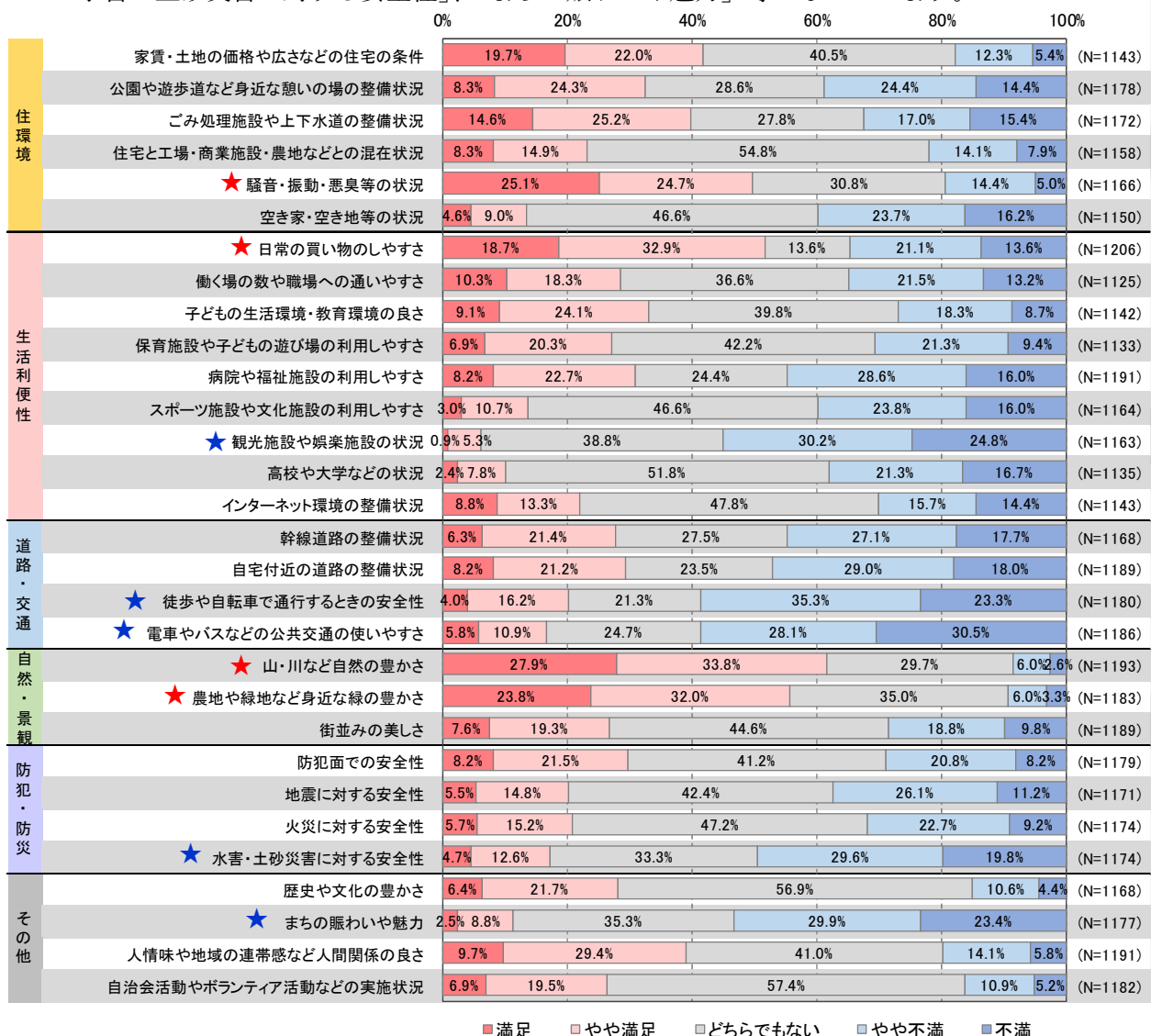
(1) 生活環境の満足度と重要度

問.お住まいの地域の生活環境の満足度と今後のまちづくりにおける重要度についてお伺いします。記入例を参考に、以下の各項目について、満足度は1～5のうち1つ、重要度は1～3のうち1つを選んで、番号に○をつけてください。

①生活環境に対する満足度

満足度の高い項目（満足+やや満足の割合が多い項目[★]）は、「騒音・振動・悪臭等の状況」、「日常の買い物のしやすさ」、「山・川等自然の豊かさ」、「農地や緑地等身近な緑の豊かさ」等となっています。

一方、満足度の低い項目（不満+やや不満の割合が多い項目[★]）は、「観光施設や娯楽施設の状況」、「徒歩や自転車で通行するときの安全性」、「電車やバス等の公共交通の使いやすさ」、「水害・土砂災害に対する安全性」、「まちの賑わいや魅力」等となっています。



■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらでもない ■ やや不満 ■ 不満

序論

②生活環境に対する重要度

はじめに

「重要である」の回答が多い項目（★）は、「日常の買い物のしやすさ」、「病院や福祉施設の利用しやすさ」、「徒歩や自転車で通行するときの安全性」、「防犯面での安全性」、「地震に対する安全性」、「火災に対する安全性」、「水害・土砂災害に対する安全性」等となっており、防犯・防災対策等安全・安心な生活環境の確保が求められています。

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

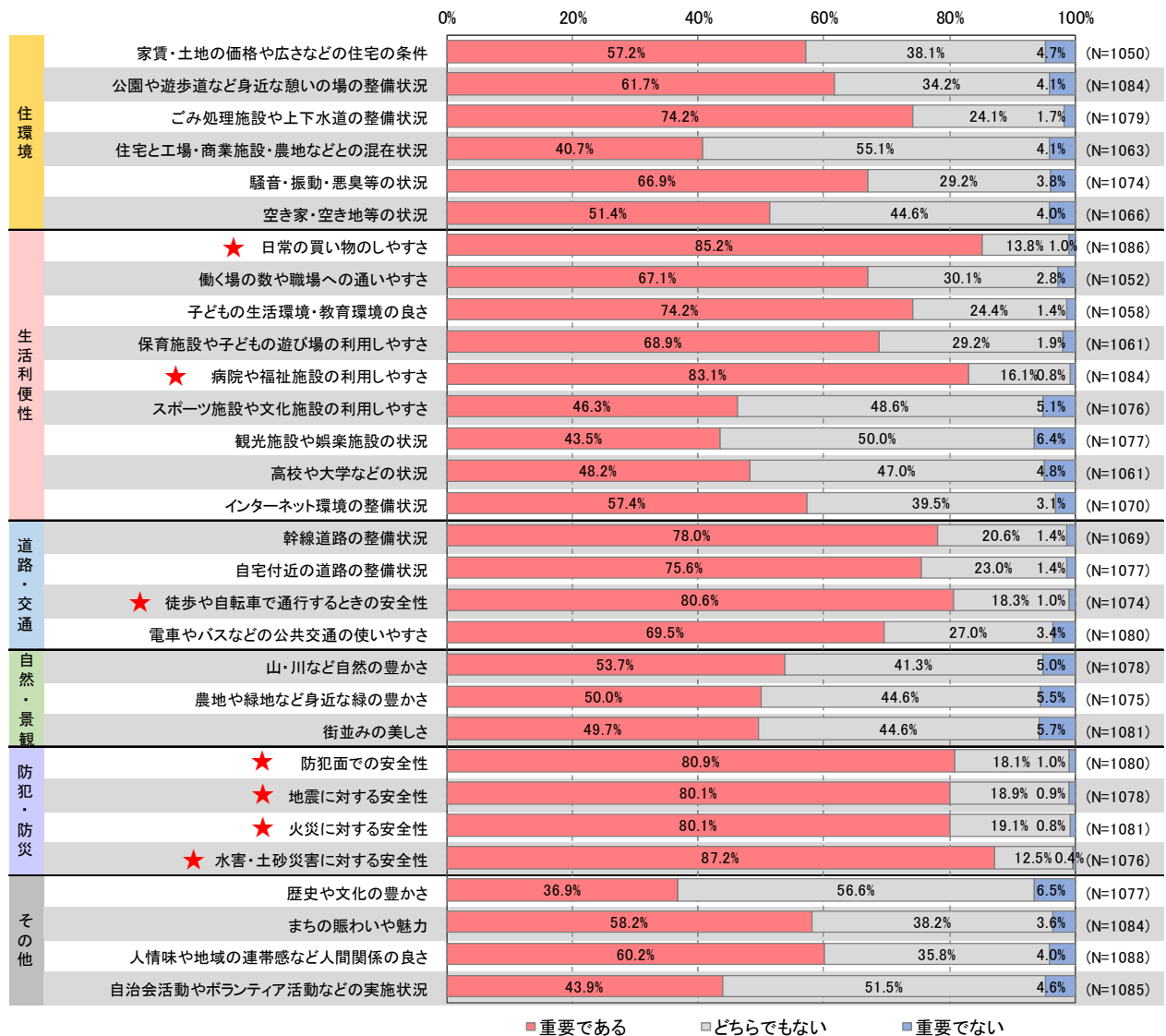
都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策



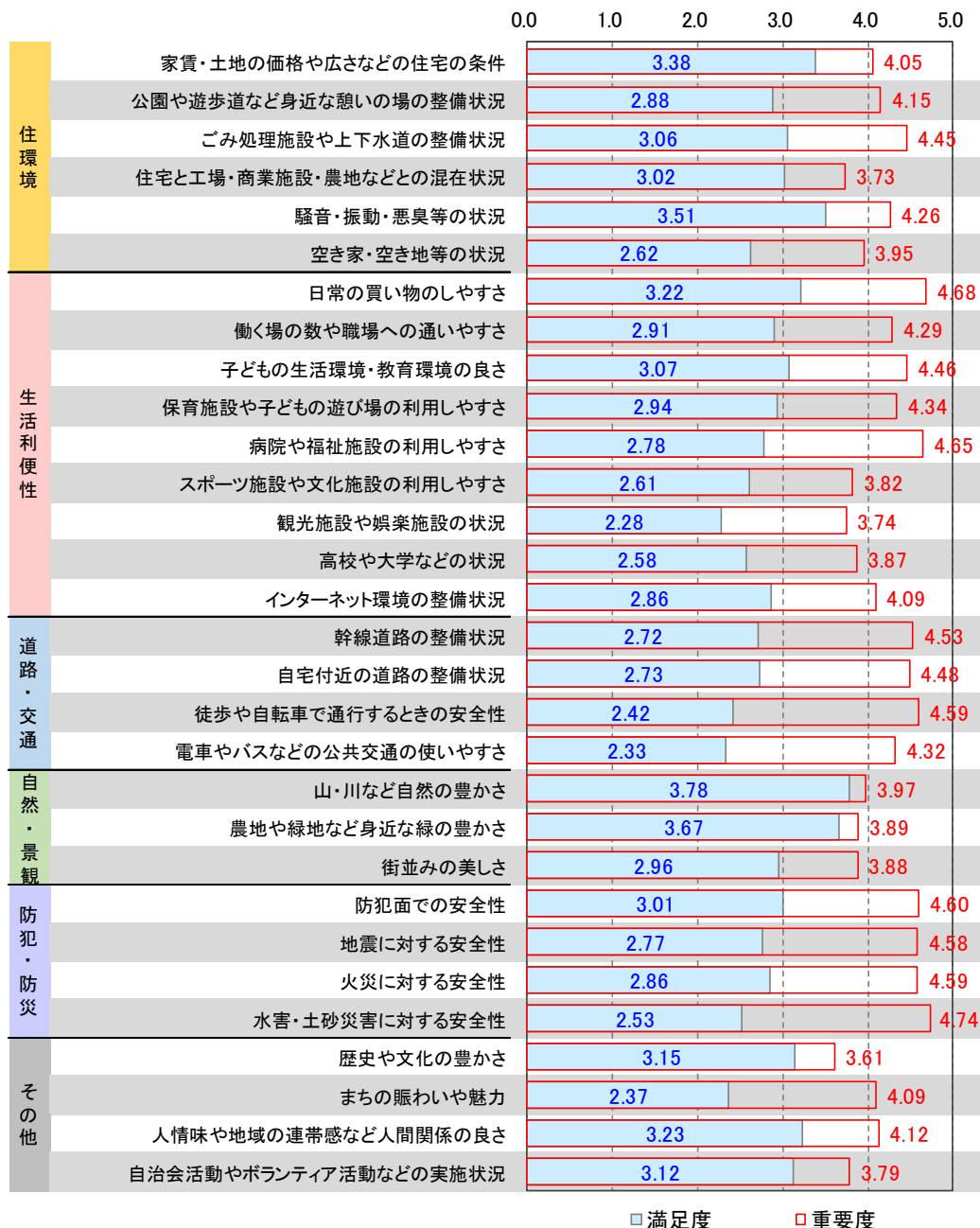
③満足度と重要度の関係（優先的に取り組むべき課題）

項目毎に「満足度」（満足：5点、やや満足：4点、どちらでもない：3点、やや不満：2点、不満：1点として点数をつけ、項目毎に回答者数に対する平均値として算出）と「重要度」（重要：5点、どちらでもない：3点、重要でない：1点として点数をつけ、項目毎に回答者数に対する平均値として算出）を算出しました。

これによると、満足度の高い項目は、「山や川等の自然の豊かさ」（3.78）、「農地や緑地等身近な緑の豊かさ」（3.67）、「騒音・振動・悪臭等の状況」（3.51）等となっています。

一方、満足度の低い項目は、「観光施設や娯楽施設の状況」（2.28）、「電車やバス等の公共交通の使いやすさ」（2.33）、「まちの賑わいや魅力」（2.37）等となっています。

重要度の高い項目は、「水害・土砂災害に対する安全性」（4.74）、「日常の買い物のしやすさ」（4.68）、「病院や福祉施設の利用しやすさ」（4.65）等となっています。



序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

また、満足度と重要度の関係を把握するため、項目毎の満足度と重要度の平均値をもとに、各項目を以下のとおり区分しました。

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

【**重点的な改善が必要な項目**】（満足度が低く、重要度が高い）

⇒優先的に改善を図る必要がある項目

【**重点的な維持が必要な項目**】（満足度が高く、重要度も高い）

⇒概ね満足が得られているが、引き続き維持・充実していく必要がある項目

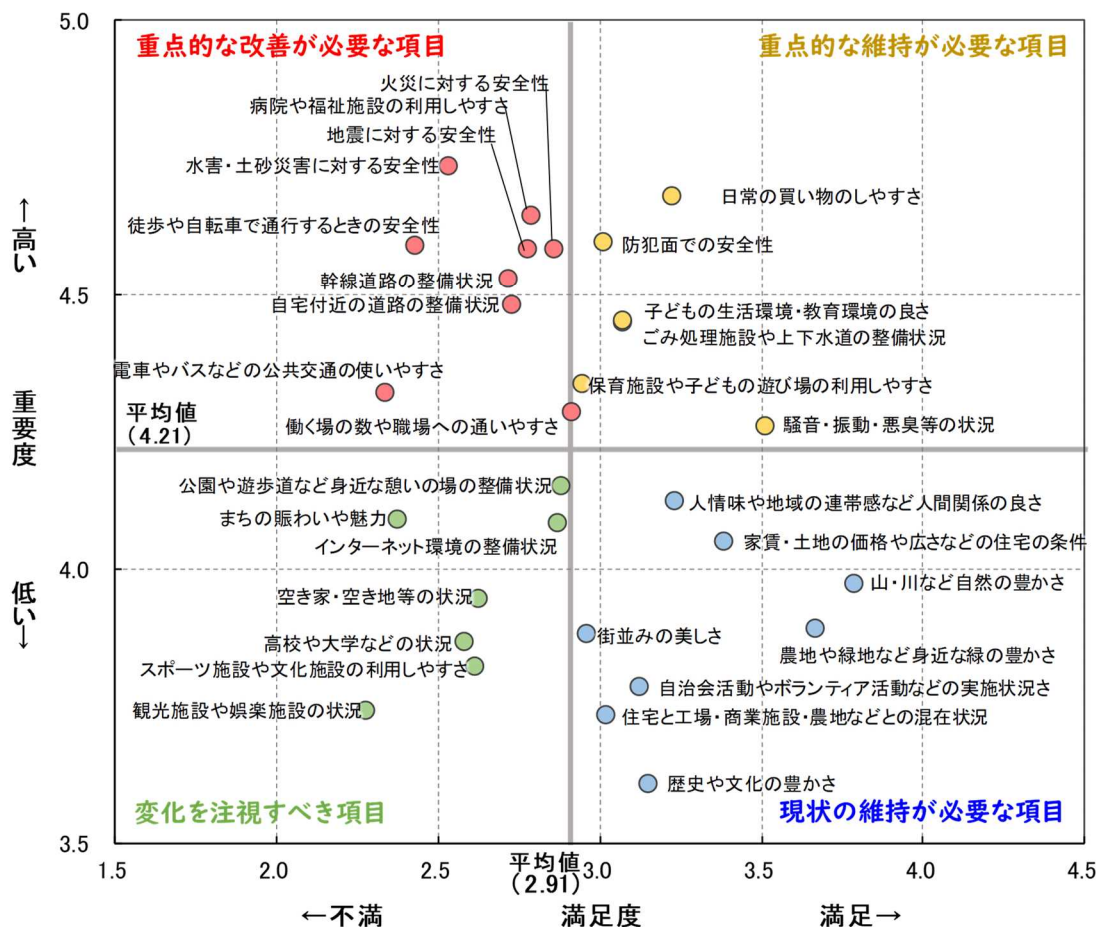
【**変化を注視すべき項目**】（満足度が低く、重要度も低い）

⇒優先的な課題ではないが住民意向の変化を注視すべき項目

【**現状の維持が必要な項目**】（満足度が高く、重要度が低い）

⇒現状を維持する項目

その結果、重点的な改善が必要な項目は「電車やバス等の公共交通の使いやすさ」、「徒歩や自転車で通行するときの安全性」、「水害や土砂災害に対する安全性」、「幹線道路の整備状況」、「自宅付近の道路の整備状況」、「地震に対する安全性」、「病院や福祉施設の利用しやすさ」、「火災に対する安全性」、「働く場の数や職場への通いやすさ」となり、これらが優先的に取り組むべき課題となっているといえます。



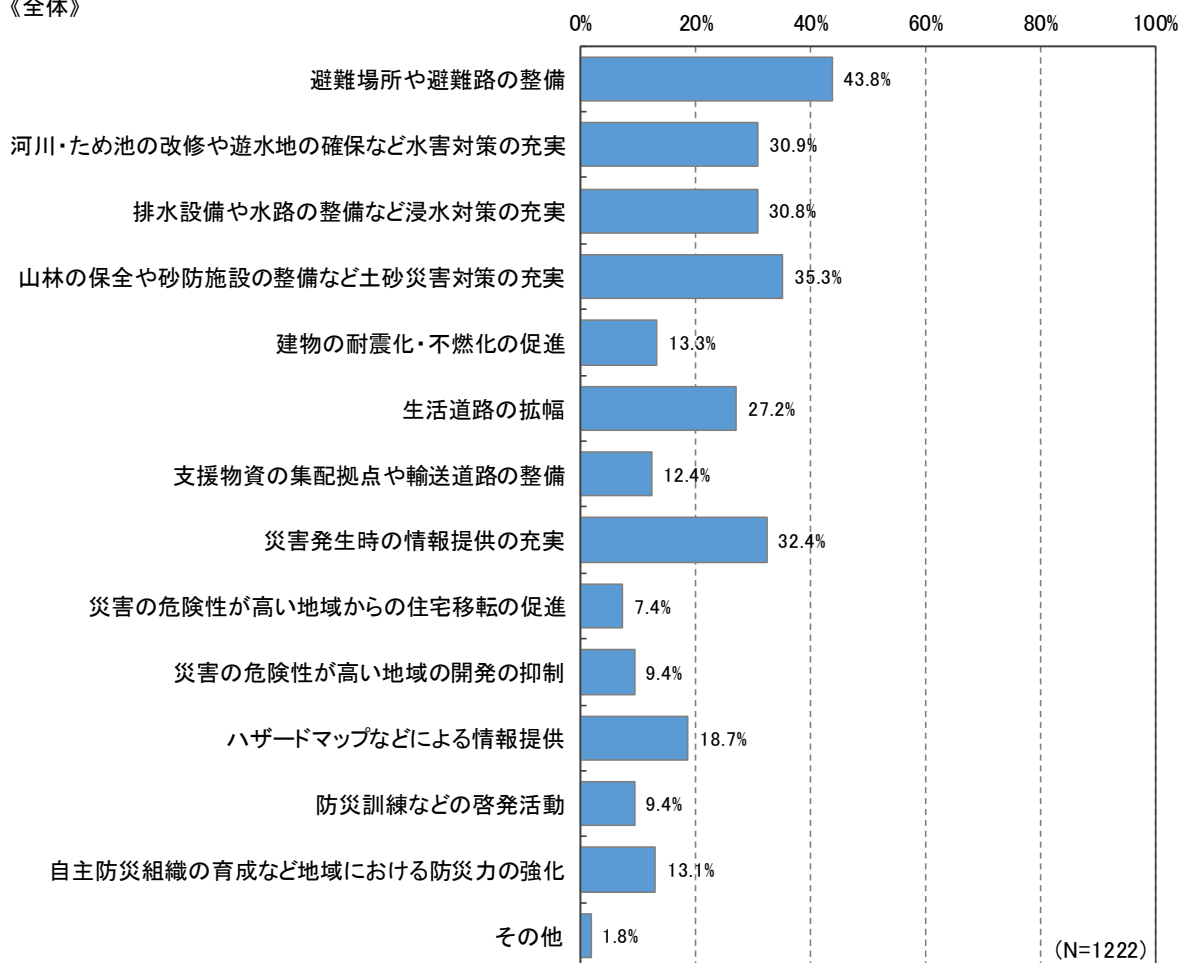
(2) 防災対策

問.防災対策として、今後どのようなことが重要だと思いますか。

あてはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

「避難場所や避難路の整備」が43.8%で最も多く、次いで「山林の保全や砂防施設の整備等土砂災害対策の充実」(35.3%)、「災害発生時の情報提供の充実」(32.4%)、「河川・ため池の改修や遊水地の確保等水害対策の充実」(30.9%)、「排水設備や水路の整備等浸水対策の充実」(30.8%)の順となっており、災害時の避難態勢の充実や被害を軽減するハード対策が求められています。

《全体》



序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

年齢別にみると、年代が下がるほど「建物の耐震化・不燃化の促進」が多く、年代が上がるほど「災害発生時の情報提供の充実」や「自主防災組織の育成等地域における防災力の強化」が多くなっており、高齢者に対する避難誘導態勢の強化が求められています。

地域別にみると、府中町・出口町周辺と高木町・中須町周辺では「排水設備や水路の整備等浸水対策の充実」、その他の集落市街地では「山林の保全や砂防施設の整備等土砂災害対策の充実」が多く、府中町・出口町周辺においては水害対策、集落市街地においては土砂災害対策が求められています。

第1章

府中市の現況と課題

《年齢別》

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
避難場所や避難路の整備	37.0%	45.8%	46.9%	43.9%	39.6%	45.5%
河川・ため池の改修や遊水地の確保など水害対策の充実	33.7%	43.0%	36.6%	30.5%	35.8%	22.5%
排水設備や水路の整備など浸水対策の充実	15.2%	30.3%	33.1%	32.9%	35.8%	30.2%
山林の保全や砂防施設の整備など土砂災害対策の充実	39.1%	42.3%	41.4%	36.0%	36.8%	29.8%
建物の耐震化・不燃化の促進	23.9%	18.3%	12.4%	14.0%	10.8%	10.7%
生活道路の拡幅	26.1%	29.6%	19.3%	23.8%	31.1%	28.9%
支援物資の集配拠点や輸送道路の整備	27.2%	12.7%	16.6%	14.0%	7.5%	9.6%
災害発生時の情報提供の充実	31.5%	19.7%	27.6%	31.7%	32.1%	38.3%
災害の危険性が高い地域からの住宅移転の促進	8.7%	9.9%	9.7%	5.5%	8.5%	6.1%
災害の危険性が高い地域の開発の抑制	6.5%	7.7%	10.3%	7.3%	8.5%	10.9%
ハザードマップなどによる情報提供	22.8%	21.8%	13.8%	21.3%	18.4%	17.3%
防災訓練などの啓発活動	4.3%	7.0%	3.4%	14.6%	8.5%	11.8%
自主防災組織の育成など地域における防災力の強化	5.4%	2.8%	11.0%	11.0%	12.3%	19.7%
その他	1.1%	1.4%	2.1%	3.0%	1.4%	1.8%
回答数	92	142	145	164	212	457

第2章

目指すべき都市像

《地域別》

	府中町・ 出口町周辺	高木町・ 中須町周辺	都市計画 区域内 集落市街地	旧府中市 集落市街地	旧上下町 集落市街地
避難場所や避難路の整備	47.7%	41.0%	43.8%	51.7%	38.4%
河川・ため池の改修や遊水地の確保など水害対策の充実	26.7%	33.9%	30.6%	34.5%	28.3%
排水設備や水路の整備など浸水対策の充実	31.3%	45.0%	20.3%	13.8%	24.5%
山林の保全や砂防施設の整備など土砂災害対策の充実	26.0%	22.2%	44.1%	58.6%	52.2%
建物の耐震化・不燃化の促進	16.0%	14.0%	11.6%	5.7%	15.1%
生活道路の拡幅	26.3%	30.2%	30.0%	25.3%	18.2%
支援物資の集配拠点や輸送道路の整備	12.2%	11.4%	14.1%	13.8%	11.3%
災害発生時の情報提供の充実	39.7%	27.0%	31.6%	29.9%	37.1%
災害の危険性が高い地域からの住宅移転の促進	5.7%	6.9%	10.0%	6.9%	6.9%
災害の危険性が高い地域の開発の抑制	8.0%	9.0%	10.6%	6.9%	10.7%
ハザードマップなどによる情報提供	24.8%	20.4%	15.9%	9.2%	17.0%
防災訓練などの啓発活動	11.1%	10.3%	8.8%	9.2%	6.9%
自主防災組織の育成など地域における防災力の強化	15.3%	9.5%	13.1%	17.2%	16.4%
その他	1.1%	0.8%	2.5%	3.4%	3.1%
回答数	262	378	320	87	159

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

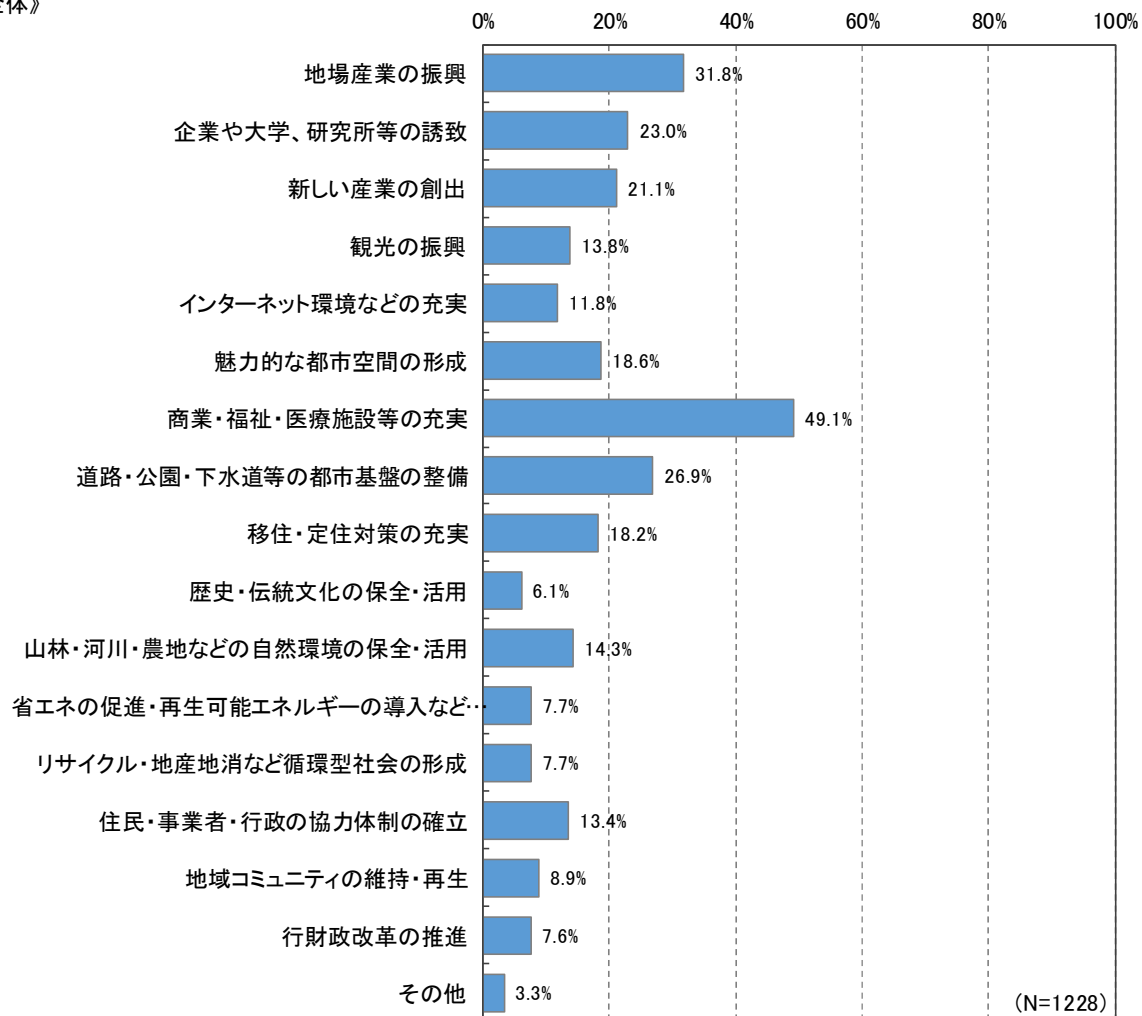
実現化方策

(3) 府中市の将来

問.府中市の将来の発展のため、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
 あてはまるものを3つまで選び、番号に○をつけてください。

「商業・福祉・医療施設の充実」が49.1%で最も多く、次いで「地場産業の振興」(31.8%)、「道路・公園・下水道等の都市基盤の整備」(26.9%)、「企業や大学、研究所等の誘致」(23.0%)、「新しい産業の創出」(21.1%)の順となっており、生活サービス施設や道路・公園・下水道等の充実、産業の振興が重要と考えられています。

《全体》



序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

年齢別にみると、年代が上がるほど「地場産業の振興」や「新しい産業の創出」等の産業振興施策や「地域コミュニティの維持・再生」の割合が多く、年代が下がるほど「インターネット環境の充実」や「商業・福祉・医療施設等の充実」の割合が多くなっています。

地域別にみると、府中町・出口町周辺と高木町・中須町周辺では「魅力的な都市空間の形成」の割合が多く、集落市街地では「インターネット環境等の充実」や「地域コミュニティの維持・再生」の割合が多くなっています。

以上のことから、中心部の市街地における魅力的な都市空間の創出、集落市街地における地域コミュニティの維持、若い世代が安心して暮らせる商業や医療施設の充実、産業振興施策の推進、情報通信環境の充実が求められています。

第1章

府中市の現況と課題

《年齢別》

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
地場産業の振興	17.6%	25.4%	29.9%	27.9%	36.8%	36.7%
企業や大学、研究所等の誘致	22.0%	23.2%	20.4%	23.6%	22.6%	24.1%
新しい産業の創出	9.9%	19.7%	19.0%	21.8%	22.6%	23.6%
観光の振興	9.9%	21.1%	17.0%	13.9%	9.4%	13.2%
インターネット環境などの充実	24.2%	20.4%	18.4%	13.9%	10.4%	4.6%
魅力的な都市空間の形成	26.4%	25.4%	19.7%	14.5%	21.7%	14.5%
商業・福祉・医療施設等の充実	50.5%	57.7%	53.1%	44.8%	48.1%	46.4%
道路・公園・下水道等の都市基盤の整備	23.1%	32.4%	21.8%	33.3%	22.2%	27.1%
移住・定住対策の充実	24.2%	16.9%	26.5%	20.6%	20.8%	12.8%
歴史・伝統文化の保全・活用	7.7%	3.5%	6.8%	3.0%	6.1%	7.6%
山林・河川・農地などの自然環境の保全・活用	12.1%	11.3%	8.2%	15.8%	16.5%	15.8%
省エネの促進・再生可能エネルギーの導入など	7.7%	3.5%	6.1%	6.1%	4.2%	11.7%
地球温暖化対策の推進	6.6%	4.2%	6.8%	5.5%	9.0%	9.5%
リサイクル・地産地消など循環型社会の形成	11.0%	7.7%	10.2%	13.3%	13.2%	17.1%
住民・事業者・行政の協力体制の確立	2.2%	4.2%	5.4%	10.3%	11.8%	10.4%
地域コミュニティの維持・再生	8.8%	6.3%	7.5%	8.5%	9.0%	6.9%
行財政改革の推進	4.4%	4.2%	2.7%	5.5%	4.2%	1.7%
その他						
回答数	91	142	147	165	212	461

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

《地域別》

	府中町・ 出口町周辺	高木町・ 中須町周辺	都市計画 区域内 集落市街地	旧府中市 集落市街地	旧上下町 集落市街地
地場産業の振興	33.1%	33.8%	32.0%	27.6%	27.0%
企業や大学、研究所等の誘致	22.4%	24.5%	25.8%	20.7%	17.6%
新しい産業の創出	19.8%	21.9%	23.4%	16.1%	20.8%
観光の振興	14.4%	15.6%	11.7%	10.3%	15.7%
インターネット環境などの充実	8.4%	7.1%	8.9%	23.0%	29.6%
魅力的な都市空間の形成	22.4%	20.8%	18.5%	18.4%	8.2%
商業・福祉・医療施設等の充実	52.1%	45.1%	52.9%	54.0%	40.9%
道路・公園・下水道等の都市基盤の整備	25.9%	33.5%	26.5%	18.4%	17.0%
移住・定住対策の充実	14.4%	17.7%	19.4%	26.4%	19.5%
歴史・伝統文化の保全・活用	9.1%	5.8%	4.6%	1.1%	8.2%
山林・河川・農地などの自然環境の保全・活用	14.8%	10.0%	12.6%	11.5%	27.7%
省エネの促進・再生可能エネルギーの導入など	9.1%	6.6%	7.1%	13.8%	6.3%
地球温暖化対策の推進	9.1%	6.3%	8.0%	5.7%	9.4%
リサイクル・地産地消など循環型社会の形成	13.3%	12.7%	14.2%	14.9%	13.2%
住民・事業者・行政の協力体制の確立	6.8%	6.9%	9.2%	12.6%	13.2%
地域コミュニティの維持・再生	8.4%	7.4%	5.8%	9.2%	8.8%
行財政改革の推進	3.0%	2.9%	3.7%	2.3%	3.1%
その他					
回答数	263	379	325	87	159

第4章

地域別構想

第5章

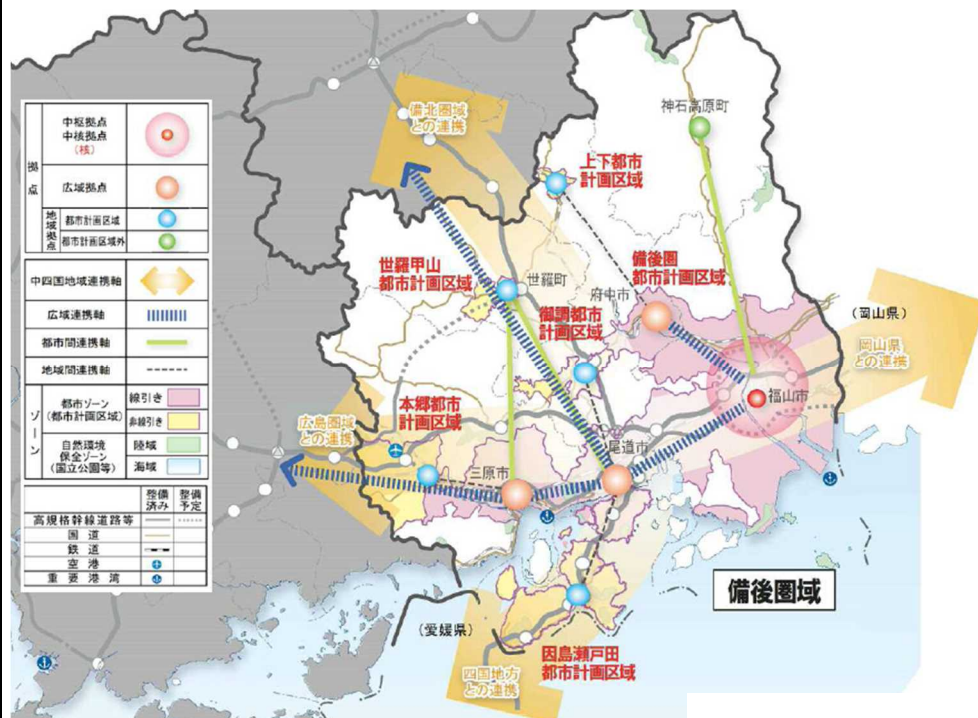
実現化方策

9 上位計画・関連計画の整理

(1) 備後圏域都市計画マスタープラン（広島県）

計画の位置付け	都市計画区域を一体の都市として総合的に整備、開発及び保全するため、区域区分の有無及び区域区分を定める際の方針や、主要な都市計画の決定の方針等、基本的な方針を示す計画
策定年次	令和3（2021）年3月
目標年次	令和12（2030）年
将来像	瀬戸内海中央部の発展を牽引する魅力と活力にあふれる備後圏域
都市計画の目標	○歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりの推進 ○地域産業のイノベーション等を通じた活力の創出 ○都市生活と自然が程よく融合した魅力ある都市の形成 ○安全・安心に暮らせる都市づくり ○きめ細やかで柔軟なサービスが提供可能なまちづくり
将来都市構造	◆拠点 ○広域拠点（線引き都市計画区域における市の中心部） ・都市機能および一部の高次都市機能の集積を図り、中核拠点の都市機能を分担する拠点。 ○地域拠点（非線引き都市計画区域の中心部） ・都市機能の集積を推進し、中核拠点、広域拠点による都市機能の補完を受けつつも、一定程度の独立性を持つ拠点。 ◆軸 ○広域連携軸（拠点同士を結ぶ広域幹線道路、鉄道等） ・高次な都市機能の強化を推進する軸であり、グローバルな都市機能を有する都市を相互の連携により実現 ○地域間連携軸（広域拠点と地域拠点を結ぶ県道、航路等） ・交流促進の軸であり、都市毎の賑わいと活力を交流連携により創出 ◆ゾーン ○都市ゾーン（都市計画区域） ・都市として一体的に整備、開発及び保全を図る必要のある区域

《将来都市構造図》



序論	備後圏都市計画区域の方針
はじめに	◆土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針 ・本市の中心部では、既存の広域的な公共交通の維持・強化を図るとともに、市街地開発事業や地区計画等の活用により、商業・業務及び生活サービス機能の充実・強化を図ります。 ・郊外部の住宅団地では、空き家や空き地となった隣地の買い増しによるゆとりある土地利用の促進や、住宅の建替え等の促進を通じ、再生を目指します。 ・内陸部では、農地・森林に配慮しつつ、地区計画を活用した工場移転や新たな企業立地の受け皿となる新規工業地や流通業務地の整備を図ります。 ・都市農地については、田園住居地域や生産緑地地区の指定を検討します。
第1章 府中市の現況と課題	◆都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針 ・福山市と拠点間を結ぶ幹線道路を整備し、コンパクト+ネットワーク型の都市を支える交通ネットワークを構築するとともに、放射・環状型幹線道路網の整備による市街地内の道路交通ネットワークの強化を図ります。 ・福山市次期ごみ処理施設を整備し、福山市、府中市、神石高原町からなる広域処理体制でのごみ処理を行います。 ◆市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針 ・広域拠点では、交通結節点周辺等において、市街地開発事業の可能性を検討する等、一層の拠点性の向上を図ります。 ◆安全・安心な暮らしに関する都市計画の決定の方針 ・ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を推進するとともに、土地利用規制や災害リスクの低い区域への居住誘導を図ります。 ◆自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針 ・河川や豊かな自然環境の適切な保全を図るとともに、緑地の保全の推進と親水空間の確保を図ります。 ◆歴史・景観に配慮した都市計画の決定の方針 ・歴史・文化資源や景観の保全・継承を図るとともに、観光資源として活用していきます。 ◆概ね10年以内に実施することを予定する主要な事業 【道 路】 (都) 栗柄広谷線 (南北道路) (栗柄町、高木町) (都) 目崎出口線 【下 水 道】 芦田川流域下水道、府中公共下水道 【河 川】 芦田川、御調川 (府中市父石町～尾道市御調町) 【砂防設備】 観音谷川 (府中市広谷町) 【供給処理施設】 府中市ごみ処理施設 (府中市鷺飼町)
第2章 目指すべき都市像	
第3章 都市整備の方針	上下都市計画区域の方針
第4章 地域別構想	◆土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針 ・上下駅周辺等の地域において、日常の購買や、医療・福祉需要に対応した生活サービス機能の充実等、利便性の向上を図ります。 ・用途地域指定区域に災害リスクの高い区域が含まれる場合は、必要に応じて、用途地域の見直しや地区計画の活用による土地利用規制の導入を推進します。 ・用途白地地域においては、必要に応じて、特定用途制限地域の指定や建蔽率・容積率の最高限度の引き下げ等により、無秩序な開発を抑制します。 ◆都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針 ・砂防事業を推進するとともに、老朽化する既存インフラの更新と維持に努めつつ、公共下水道の整備を推進します。 ◆市街地開発事業に関する主要な都市計画の決定の方針 ・中心市街地や都市基盤整備が不十分な既成市街地等において、市街地開発事業の活用を必要に応じて検討します。 ◆安全・安心な暮らしに関する都市計画の決定の方針 ・ハード・ソフトが一体となった防災・減災対策を推進するとともに、土地利用規制や災害リスクの低い区域への居住誘導を図ります。 ◆自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針 ・市街地の外縁部の森林や河川等の自然環境は、自然景観を生み出す景観要素として適切に保全、活用を図ります。 ◆歴史・景観に配慮した都市計画の決定の方針 ・歴史的景観の保全を図るとともに、観光資源としての活用を図ります。 ◆概ね10年以内に実施することを予定する主要な事業 【下 水 道】 上下公共下水道 【砂防設備】 大畔谷川 (府中市上下町)
第5章 実現化方策	

(2) 第5次府中市総合計画

計画の位置付け	市政を推進していくための計画として最も上位に位置付けられる計画で、本市の総合的、計画的な行政推進の指針であり、また市民、企業、行政が一体となって共有し、協働して取り組むための総合的な指針
策定年次	令和2（2020）年6月
計画期間	令和2（2020）年度～令和11（2029）年度
まちの将来像	しあわせ実感！“力強さ”と“やさしさ”のある未来を創造するまち 府中市
基本目標	○力強い産業が発展するまち（ものづくり産業の振興、人材確保、農林業） ○人・つながりが育つまち（子育て、教育、多様な人材の活躍） ○活気・賑わいを生むまち（まち・中山間、社会増減ゼロ、観光振興、スポーツ振興） ○安全・安心が持続するまち（命を守る、健康づくり、地域共生社会、生活環境） ○ICT都市ふちゅうの実現（高速情報通信網、産業・市民生活、市役所）
基本施策と主な取組内容	◆力強い産業が発展するまち ○「ものづくり」のブランド向上や新産業の創出を進めるとともに、商業をはじめとした中小企業等の活性化を図ります ・多様な創業と新事業展開 →空き店舗・工場等の活用、サテライトオフィスやコワーキングスペースの整備 ・産業発展の環境整備 →道路網の整備、高速情報通信網整備（5G、ローカル5G）、産業団地造成の検討 ・消費を呼び込む魅力の創出 →駅周辺の賑わい創出、ものづくり×観光・ものづくり×サービスの推進 ○「農」の持つ可能性と新たな価値を追求する等、未来につながる農林業の振興を図ります ・農林業の生産基盤の整備 →農道・林道の整備促進、農地集積の推進、土地改良事業の推進 ・後継者・担い手の確保・育成 →機械、施設の整備、農業労働力の確保 ・農業の持つ可能性の追求 →アグリビジネスの推進 ・スマート農業の推進 →ドローンの活用促進、鳥獣被害対策 ◆人・つながりが育つまち ○多様な人材が活躍できる土壌を育てます ・まちの魅力につながる文化活動の推進 →公民館の利活用推進、空き家の利活用 ・市民協働のまちづくりの推進 →市民・各種団体・企業・行政の交流促進、市民のまちづくり参画推進 ◆活気・賑わいを生むまち ○市民・団体・企業・行政の総力で地域の魅力を向上し、賑わいと活力を創出します ・賑わいを呼び込む新たな都市魅力の創出 →芦田川の河川空間の整備と利活用促進、ウォーカブルなまちなか形成の推進、歴史・文化遺産（資源）を活かしたまちづくりの推進、市民・各種団体・企業・行政の交流促進、持続可能な中心市街地の整備 ・中山間地域の活力創出 →地域資源の活用支援、高速通信基盤整備、農家民泊・教育旅行等の体験観光、ICTを活用した農業ビジネスの推進 ・計画的な土地利用の推進 →立地適正化計画の推進、都市農地の保全・活用事業の実施、民間参加を可能とする公園の環境整備 ・持続可能で利便性の高い都市・交通基盤の構築 →効率的な公共交通体系、ICTを活用した交通社会の構築、府中駅周辺の整備、県道府中松永線（都市計画道路 栗栖広谷線（南北道路））の推進、国道486号の充実、道路・橋梁の長寿命化、幹線道路及び自転車・歩行者道の整備

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論	基本施策と 主な取組内容
はじめに	
第1章 府中市の現況と課題	○市民に愛され、市外在住者からも選ばれる「社会増減ゼロ」のまちを目指します ・関係人口の獲得・拡大 →テレワーク拠点やコワーキングスペース、市内人材との協働ができるハブ拠点の整備 ○歴史・文化・ものづくり・食等の多彩な地域資源を活かした観光振興により、地域を活性化します ・選ばれる観光地づくり →歴史的価値を持つ建物の観光活用に向けた整備 ・地域で稼ぐ観光の実現 →観光客が利用できるトイレ環境の整備、公衆フリーWi-Fiの設置 ○すべての人がスポーツを楽しめる環境を整備するとともに、スポーツによる地域の賑わいを創出します ・スポーツを活用した賑わいの創出 →芝生グラウンドの整備 ・スポーツを通じた健康づくり →市民プール等スポーツ施設の整備・改修 ・スポーツへの参画人口の拡大 →総合型地域スポーツクラブの充実
第2章 目指すべき都市像	◆安全・安心が持続するまち ○自然災害をはじめとした様々なリスクから命を守る取組を推進します ・地域防災力の向上 →自主防災組織の活動支援 ・災害に備えた強靱なまちづくり →計画的な施設の耐震化、河川改修の推進、山地災害防止対策の推進、生活インフラの強靱化、建築物の耐震促進、危険ブロック塀対策推進 ○安全・安心で、快適な暮らしを実感できる生活環境を確保します ・生活環境・環境衛生の充実 →水道広域化（県内一元化）、浄水場・水道施設の耐震化・改修・更新、下水道施設の整備加速化、合併処理浄化槽設置推進、ごみ処理の広域化、不法投棄対策、ごみの減量化・リサイクルの推進、クリーンセンター（中継施設）整備、地域との協働による街区公園等の整備 ・住宅政策・空き家対策の推進 →子育て世代や高齢者等の居住環境の整備、団地再生等既存住宅団地の対策、市営住宅のストックマネジメント、危険空家対策、住宅地の魅力向上 ・防犯・交通安全の推進 →防犯カメラの設置推進、交通安全施設の整備促進、防犯灯の整備
第3章 都市整備の方針	
第4章 地域別構想	◆ICT都市ふちゅうの実現 ○Society5.0を見据え、様々な分野でのICT等の未来技術の導入を目指します ・5Gを見据えた高速情報通信網の市内全域整備 →高速情報通信基盤整備、5G基地局の整備促進 ・産業活性化、暮らしの課題解決に向けたICT導入推進 →デジタル技術やドローン等を活用した地域課題の解決 ◆将来像を実現するための行政経営の方針 ・持続可能で質の高い行政サービス提供のための行財政基盤の再構築 →将来を見据えた社会インフラの最適化 ・地域・市民との協働体制の再構築 →情報発信機能の強化と広聴の充実、多様な主体との連携、地域コミュニティの強化
第5章 実現化方策	

(3) 府中市立地適正化計画

計画の位置付け 都市全体の観点から、居住機能や商業・医療等の都市機能の立地、公共交通の充実等に関する包括的なマスタープランとして策定する計画

策定年次	平成 29 (2017) 年 3 月
目標年次	令和 17 (2035) 年
都市づくりの目標	○市街地に潤いを与える農地やオープンスペースと調和した、ゆとりある居住環境を誘導 ○日常生活に必要な公共公益施設が集まり、人々の交流の場となる生活拠点を維持 ○工場・企業等の産業関連機能が住宅と共存した、ものづくりの活気あふれる市街地を誘導 ○地域の核と交通ネットワークが維持された、住み続けられる集落市街地を誘導
居住誘導区域の方針	◆誘導する市街地像 ・都市機能や公共交通駅周辺における「生活利便性の高い住環境」 ・農地等が残る地域の「みどりの豊かなゆとりある住環境」 ◆目標と誘導方針 ○居住地として積極的に選ばれる市街地を形成し、市外への人口流出を食い止める ・都市計画道路の継続整備 ・建物の更新と合わせた道路基盤整備 ・農地等を活かした緑豊かな住環境整備 ○車を利用しなくても暮らせる住環境を確保する ・歩いて暮らせる質の高い空間の継続 ・空き家の活用及び跡地利用による憩いの場の創出 《居住誘導区域》 □居住誘導区域 見晴団地 桜が丘団地 基本市街地 ○ : 居住誘導区域 0 0.5 1.0 km 目標2 車を利用しなくても暮らせる住環境を確保する 目標1 居住地として積極的に選ばれる市街地を形成し、市外への人口流出を食い止める

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

都市機能誘導
区域の方針

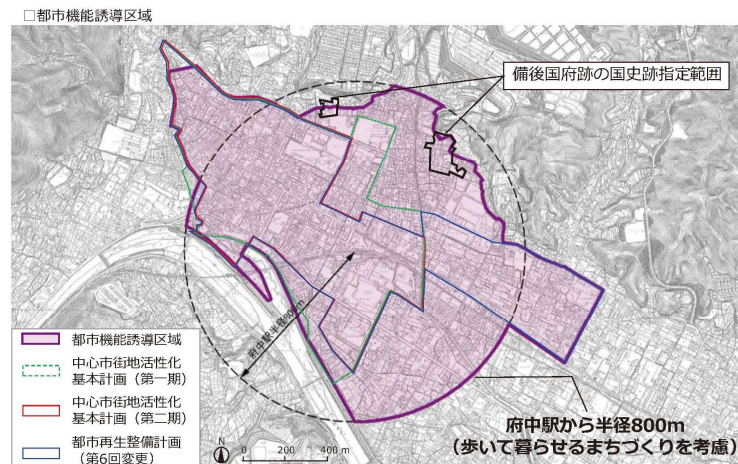
◆誘導する市街地像

- ・ものづくり産業の工場や企業、商業等が沿道に立地する産業軸

◆目標と誘導方針

- 府中駅周辺に都市機能の集積を維持・促進し、生活の中心拠点を形成する
- ・府中駅周辺の都市機能の維持
- ・新しい機能等の誘導
- ・歴史文化を活かした観光機能の強化
- 産業軸として整備している南北道路の沿道でものづくりのまちの顔を形成する
- ・南北道路の継続整備
- ・沿道への産業機能・商業機能等の集積の誘導

《都市機能誘導区域》

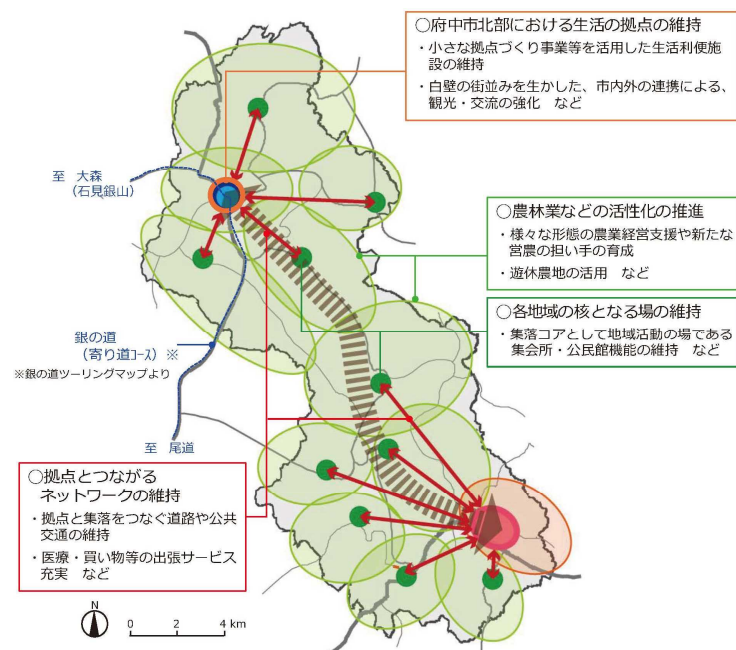


誘導区域外の方針

◆地域の核の維持と拠点と繋がるネットワークの確保

- ・府中市北部における生活の拠点の維持
- ・各生活地域の核となる場の維持
- ・拠点とつながるネットワークの維持
- ・空き家の利活用や跡地利用
- ・農林業等の活性化の推進

《拠点やネットワークの形成のイメージ》



(4) 府中市グランドデザイン

計画の位置付け	市全体を支える中心市街地・生活中心街において、概ね 20～30 年後の将来に人々が楽しく過ごしている様子をイメージし、その目指すまちの将来像に向かって、それぞれの場所でどのような取組を行えば良いのかを示す計画
策定年次	令和 2 (2020) 年 10 月
目標年次	概ね 20～30 年後
将来像	府中の本物（まんなか）を感じ、「楽しみ」「暮らせる」まち
目指すまちの姿	○市民の暮らしやすさの視点 ・誰もが府中に愛着や誇りを感じ、暮らしを楽しんでいるまち ○訪れる人々や受け入れる人々の視点 ・来街者や活動団体等、多様な人々の観光交流・ビジネス活動がアクティブなまち
将来像の実現に向けた方針と取組	◆賑わいと交流のエリア ○特性 ・市役所や府中駅、道の駅びんご府中、大型商業施設、生涯学習センター、図書館をはじめとした本市の都市機能が集積した日常生活の中心エリア ○戦略目標 ・道の駅びんご府中や商業施設等が集積する本市の玄関口として駅前の持つポテンシャルを活かし、機能強化を図ります。 ・駅周辺の南北の往来が活発になるよう、南北の連絡強化を図るとともに、地域住民と来街者が入り混じり、交流する拠点として、新たな賑わい創出を図ります。 ・市民の日常生活においても暮らしの安心を生む交流や“学び”の交流、クリエイティブで未知と出会う交流を図ることのできる拠点づくりを行います。 ・駅の北側を中心として官民によるパブリック空間の創出を先導するとともに、新しい生活様式に対応した働き方を実現する拠点形成を図ります。 ・駅周辺の低未利用地等を活用したまちなか居住の促進を図ります。 ◆子どもの MIRAI 創造エリア ○特性 ・府中市こどもの国を中心にしながら、子育て支援の拠点として、芦田川・出口川等の河川空間を活かしなら、“遊び”や“教育”のあり方を発信するエリア ○戦略目標 ・子育て支援の拠点として、“MIRAI”のまちづくり戦略のコアとなるエリアを形成し、次の世代へと受け継いでいくためのメッセージを発信します。 ◆多様な人々の交流・滞在によるアクティビティエリア ○特性 ・お祭り広場や本通り商店街、恋しき、近世・近代のまちなみ等の歴史的資源が多く集積しており、近年では古民家等を現代風に再生したカフェ等、リノベーションが進んでいるエリア ○戦略目標 ・近世の宿場町であった雰囲気を残しつつ、古民家等の歴史的資源を活用した観光まちづくりにより、人中心の中心市街地・生活中心街へのリノベーションを推進します。 ・近代のものづくり産業が発展した府中のシンボルとして、多様な人々が回遊し、滞在するエリアとして、古さを活かし、新しさを融合するまちづくりを推進します。 ・古民家等の歴史的に価値ある資源をリノベーションした居住の促進を図るとともに、落ち着いたあるまちなみで、地域住民が“普段着”の交流を図るエリア形成を推進します。 ◆歴史・文化的記憶の継承エリア ○特性 ・総社やはじまりの広場等「備後国府」に関わる歴史・文化を包蔵し、府中の起源となるエリア ○戦略目標 ・「史跡備後国府跡」の保存・活用をはじめ、府中の古代・中世の歴史や文化についての記憶を継承し、市民に日常的に活用し親しんでもらいます。

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

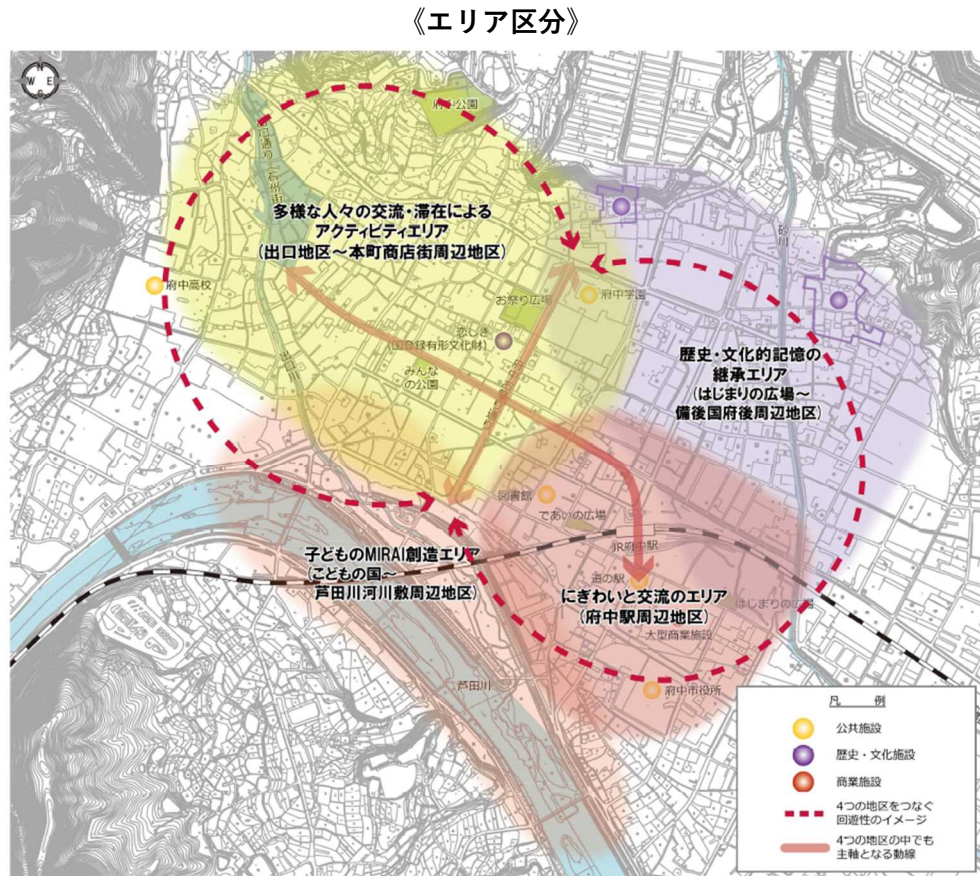
第4章

地域別構想

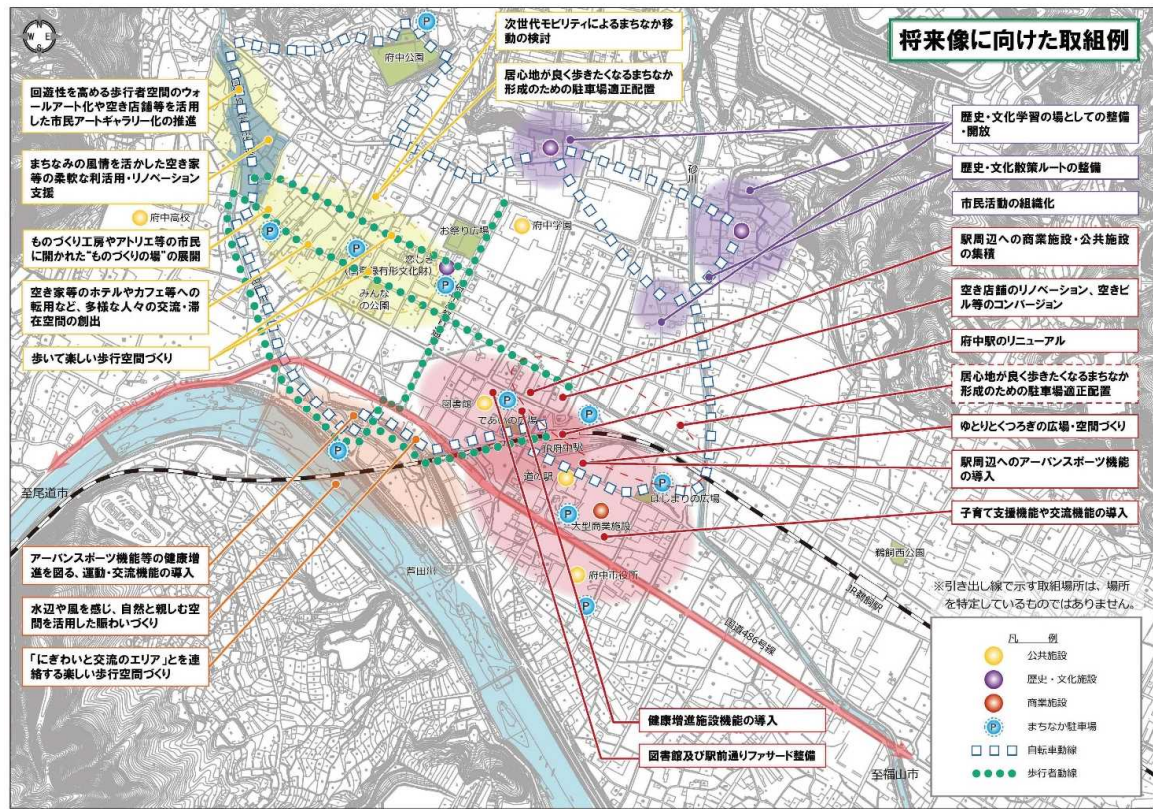
第5章

実現化方策

将来像の実現に向けた方針と取組



《将来像に向けた取組例》



10 まちづくりの課題

ここまでの分析・整理結果を踏まえた、本市におけるまちづくりの基本的課題は次のとおりです。

(1) 人口流出、人口減少下での都市計画と区域区分のあり方

①市街地における計画的な土地利用の推進

急速な人口減少・少子高齢化の進行や地球環境問題への意識が高まるなか、効率的でコンパクトなまちづくりが求められており、本市においても立地適正化計画を策定し、都市機能や居住機能の誘導に向けた取り組みが進められています。

しかし、本市では市街地の拡散・低密度化が進行し、府中駅周辺の市街地を中心に空き家が増加しています。また、点在的な宅地化の増加による住・工・農の土地利用の混在や都市基盤整備の遅れ等、居住環境の悪化が懸念されます。

そのため、都市機能の適切な配置・誘導、空き家・空き地の発生防止や有効活用、周辺環境と調和した道路・公園・下水道等の都市基盤整備と一体となった市街地形成等、計画的な土地利用を推進する必要があります。

また、計画的な土地利用の推進や良好な都市景観の形成にあたって、具体的な規制や誘導方策を検討する必要があります。

②市の持続的な発展に向けた多様な住まい方への対応

平成26(2014)年の府中市都市計画マスタープラン改訂後、都市機能の集約化による拠点性の確保と、中心部の拠点と各集落地・主要都市を結ぶ道路・公共交通によるネットワークの構築を行うことで、市民が快適に住み続けられる都市を目指し、ネットワーク型コンパクトシティの取組を進めてきました。近年の人口減少の加速と周辺市町への人口流出が懸念される中で、市の持続的な発展のためには、人口の維持が必要となります。今後は、これまでのネットワーク型コンパクトシティの考えを基本としながらも、移住・定住のニーズに応え、一定の秩序を保ちつつ、区域区分に限定しない市域全体での多様な住まい方に対応が求められています。

(2) 企業流出による経済力の低下への対策、生産活動ができる基盤の確保

①新たな産業用地の確保や操業環境の維持

ものづくりのまち府中として、府中市の特徴である市街地の職住近接の環境において、これまで特別用途地区の策定等、地場産業の保全やまちに向けて開かれた産業の推進を図ってきました。しかし、創業から年数が経過し、工場の拡張に向けた更新等、地場産業の新たな操業環境への対応が現在の土地利用規制の中では難しい状況が生まれているため、地場産業の保全・発展に向けた操業環境の確保について検討していく必要があります。

また、産業の発展をまちづくりの柱とする中で、これまで産業立地の促進等を進めてきまし

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論	たが、市街地においては工場の拡張や新規産業の誘致に対応できる産業用地が少なく、市外への企業流出が懸念されています。そのため、令和9（2027）年に全線開通を予定している都市計画道路 栗柄広谷線（南北道路）の沿道や、高速道路インターチェンジに近接する地区の産業用地への土地の活用が求められています。
はじめに	
第1章	(3) 中心市街地の賑わいと住宅団地及び集落市街地のあり方
府中市の現況と課題	①生活サービス機能の維持・充実と居住の誘導
	急速な人口減少・少子高齢化により、市街地の空洞化や集落市街地の過疎化が進行し、生活サービス施設や地域コミュニティの維持が困難となることが懸念されています。
	平成26（2014）年の改訂以降、立地適正化計画の策定等により中心市街地への都市機能の誘導や居住誘導を行う等、ネットワーク型のコンパクトシティの実現に向けた取組を進めてきましたが、集落市街地からのアクセスやコミュニティの維持等の課題は残っています。
第2章	②市の生活中心拠点の賑わいと交流の促進
目指すべき都市像	そのため、引き続き生活に身近な商業・福祉・医療等の生活サービス施設が集積した拠点を、地域特性に応じて適切な規模で配置するとともに、機能の充実や、集落市街地からこれら拠点へのアクセス性の向上を図ることで、どこに住んでいても生活サービスを受けることができ、今後も住み続けることができる環境を整える必要があります。また、都市機能を維持していくためには、地区内に一定の人口集積が必要であるため、これらの拠点周辺への居住誘導を進めていく必要があります。
第3章	
都市整備の方針	府中駅周辺市街地は府中市全体の核となる地区であり、同地区においては、小中一貫教育校の整備を中心とした府中駅北側市街地の整備、交通結節点である道の駅や子育て支援施設である i-coreFUCHU（いこーれふちゅう）、府中市こどもの国の整備が行われてきており、今後も市民プールの誘導・整備が計画されている等、多世代交流空間の形成が進められています。
第4章	③住宅団地や集落地における居住環境の維持・再生
地域別構想	しかし、駅南北市街地の連続性等の継続している課題もあり、引き続き府中駅周辺市街地は、ネットワーク型コンパクトシティの中心拠点として、新たな魅力の創出に向けた整備・活用を進めていく必要があります。
第5章	
実現化方策	郊外の住宅団地や集落地では、急速な人口減少・少子高齢化を背景とした空き家等の増加や地域活動の衰退により、居住環境の更なる悪化や地域コミュニティの弱体化が進むことが懸念される等、新たな都市の課題への対応が求められています。
	そのため、住み続けられるまちづくりに向けた、空き家対策の推進や高齢化の進む住宅団地の利便性確保、生活・公共サービス機能の確保等による居住環境の維持を図るとともに、住民による主体的な地域づくりを促進すること等を通じて、コミュニティの維持・再生を図る必要があります。

④地域資源を活用した地域の魅力創出、関係人口の創出と地域コミュニティの活性化

全国的な人口減少や東京圏への一極集中が続くなか、地域の活力を維持していくためには、定住人口だけではなく、関係・交流人口の増加を図ることが求められています。そのため、本市が誇る地場産業や歴史・文化、自然といった地域資源を活用し、地域の魅力創出に向けて一体的な取組を進める必要があります。

また、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、働き方改革やデジタル化が急速に進展したことから、テレワーク等の場所を選ばない多様な働き方が注目されています。加えて、人口減少・少子高齢化の進行により地域活動の担い手が不足しており、地域コミュニティの衰退が懸念されています。そのため、住民と行政の協働体制の確立や住民同士の支え合いが機能する地域コミュニティの形成や、地方移住・サテライトオフィスの場として空き家・空き店舗の活用を図る等、地域コミュニティの活性化の促進について検討する必要があります。

⑤豊かな自然環境や歴史・文化的資源の保全活用

豊かな自然環境や備後国の中心であった歴史は本市が誇る重要な地域資源です。また、地域ごとの歴史等も本市を語るうえで重要な資源となります。

こうした地域資源を適切に保全し次世代に継承するとともに、これらを活用した観光施設等の整備や景観形成等により、市民が誇りに思い、市外からも多くの人が訪れ、交流の生まれるまちづくりを進める必要があります。

⑥身近な公園やスポーツ環境の充実

近年、新型コロナウイルス感染症の流行等を背景に、ライフスタイルの多様化や健康志向の強まり、自然との触れ合い等、公園やスポーツ環境に対するニーズが高まっています。また、子育て環境の充実や高齢者の交流の場の確保、災害時の避難場所や被害軽減といった防災の観点からも、公園等のオープンスペースの確保は重要視されています。

そのため、多様なニーズに対応した身近な公園の整備やウォーキングコース、スポーツ施設等気軽に運動できる環境の充実を図る必要があります。

⑦公共施設等の計画的な整備と持続可能な維持管理

地域経済の落ち込みによる歳入の減少や高齢化の進行による福祉分野の経費の増大等により地方の財政状況は厳しさを増しています。また、今後は公共施設や都市基盤の老朽化による維持・更新コストの増加により財政的制約が一層強まることが予想されます。

そのため、整備優先順位の検討や進捗状況等を踏まえた計画の見直し、機能の複合化や移転集約を通じた適正な配置等、公共施設や都市基盤の計画的な整備を進める必要があります。

また、長寿命化や民間活力の導入等により、将来にわたって必要な住民サービスを提供できる持続可能な維持管理を推進する必要があります。

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

(4) 市街地の拡大に伴う人口の移動

①府中市に住みたいと思われるような居住環境の形成

これまで市街地に農地が広く残っていた高木・中須町周辺について、近年宅地化され市街地が拡大しており、人口も他地区より比較的維持されているほか、これまでの目的型商業の立地誘導により、一定の利便性が向上しつつあります。しかし、福山市をはじめとした市外への人口流出を抑制していくためには、更なる「居住地として本市が選ばれるまちづくり」が求められます。特に、生産活動や消費活動の主力である若年層や子育て世代の移住・定住を促す居住環境の形成が、持続可能な地域社会を形成する観点から重要となります。このようなことから隣接市町等への人口流出のダムの機能が期待される地区として都市計画道路 栗柄広谷線（南北道路）の整備を契機に、国道 486 号沿道への目的型商業の誘導を引き続き進め、加えて身近な公園の整備等、若年層や子育て世代にとって利便性の高い魅力的な居住環境の形成に向けて検討する必要があります。

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

②都市農地の位置付け、保全・活用方策の検討

近年、市街地内の農地について景観、教育、環境保全、防災等の多面的な機能が注目されています。本市の市街地にも多くの都市農地が残っていますが、宅地等への転用が多く、適切な保全・活用が進んでいません。

そのため本市における都市農地の位置づけを改めて明確化した上で、ゆとりと潤いのある居住環境の形成に向けた保全・活用方策を検討する必要があります。

目指すべき都市像

第3章

③公共下水道等の污水处理施設の整備推進

污水处理施設は、豊かな自然環境の保全や生活環境の改善・公共用水域の水質保全を図る上で重要な都市基盤です。本市では、公共下水道への接続あるいは合併処理浄化槽への転換が進んでおり污水处理人口普及率が増加傾向にあるものの、全国・広島県の平均と比べると低い水準にあり、公共下水道については整備済の区域が働く場や生活利便施設が集積するエリアの一部に留まっており、多くの未整備区域を残している状況にあります。

そのため、引き続き人口集中地区や土地利用に応じた段階的な公共下水道の整備と合併処理浄化槽の整備推進を進めていく必要があります。

都市整備の方針

第4章

地域別構想

(5) 激甚化する災害への対策、安全安心な都市づくり

①災害に強い都市づくりの推進

これまで、災害に強い基盤の整備として、国道 486 号を中心とした道路の防災性向上に向けた改修等を進めてきました。近年、本市でも芦田川の氾濫による浸水や大雨による土砂災害等の危険性が高いことから、災害に強い都市づくりが求められています。

そのため、今後も水害・土砂災害に備えた基盤整備を進めていくとともに、避難場所や避難

第5章

実現化方策

路の整備等防災・減災に向けた対策を推進する必要があります。また、ハード面の対策だけではなく、災害発生時の情報提供の充実や自主防災組織等による地域防災力の強化等、住民の避難行動の強化に向けたソフト面での対策も必要です。

②災害ハザードエリアを踏まえた土地利用の規制・誘導

新たに、災害による被害を防止・軽減するため、災害の危険性が高い地域における開発を適切に規制するとともに、既に居住地として利用されている地域については、必要に応じてより安全な地域への移転・誘導等、土地利用規制に向けた検討が必要となっています。

(6) 道路ネットワークのあり方

①幹線道路網の維持・強化や生活道路の整備

平成 26（2014）年の改訂以降、国道 486 号、都市計画道路 栗柄広谷線（南北道路）、目崎出口線等の都市計画道路網による都市の骨格形成に取り組んでおり、目崎出口線は事業着手され、栗柄広谷線（南北道路）は令和 9（2027）年の全線開通予定に至っています。今後は、沿道土地利用を含め、商業施設や企業の立地誘導に取り組んで行く必要があると共に、産業振興を支える道路、観光への誘客を含めた広域ネットワークの構築が求められています。

また、昨今の激甚化する災害に対し、災害発生時の救助活動や避難活動を円滑に実施する観点からも、ネットワークが寸断されないよう多重性の確保や橋梁の長寿命化、耐震化といった防災機能の向上に向けた緊急輸送道路の強化が求められています。特に、中心市街地と集落地をつなぐ道路は、集落地にとって生活サービス施設にアクセスするため重要な道路である一方、災害発生時に寸断される可能性が高いことから、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動に資する緊急車両の通行確保等、幹線道路としての機能を充実させる必要があります。

②公共交通網の維持・充実

平成 26（2014）年の改訂以降、中心市街地と集落地を結ぶ路線バスの再編等を実施し、より使いやすい公共交通に向けて取組を進めてきました。鉄道やバス等の公共交通は、運転免許を持たない学生や若年層にとって通勤通学や生活において重要な交通手段であり、自分で車を運転できない（しない）高齢者にとっても生活していく上で必要不可欠なものです。今後も高齢化が進行することで、自分で車を運転できない（しない）住民が増加することが予想されることから、その重要性が益々高まると考えられます。また、観光等による市外からのアクセスとしても公共交通は広域ネットワークを形成する重要な役割を担っています。

そのため、ICT も活用しながら地域の特性に応じた公共交通を維持・確保するとともに、公共交通の持続性を高めるためにも、府中駅前広場への路線バスの乗り入れや駐車場、乗り継ぎのしやすさといった府中駅・道の駅の交通結節機能の強化や、観光活用等を通じた公共交通の利用促進を図る必要があります。

序論

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策

序論

③市街地における安全な歩行空間・自転車走行空間の整備

車を運転しない高齢者の移動環境やまちなかの開かれた「居心地の良い歩きたくなる空間」の創出等、歩いて暮らせるまちづくりや居心地の良い歩行空間の必要性が高まっています。また、脱炭素社会実現の観点からも、自動車の利用を抑制し、公共交通や徒歩・自転車への転換を図ることが求められています。

そのため、安全な歩行空間や自転車走行空間を確保し、過度に自動車に頼らず歩いて暮らしやすい居住環境を形成する必要があります。また、子育て世代の流入やまちの賑わいを創出する観点から、安全で歩きたくなるような空間の形成を図る必要があります。

(7) まちづくりへのICTの導入・活用

①情報通信環境の整備やまちづくりへのICTの活用

近年、新型コロナウイルス感染症の流行を契機に社会全体のICT化が加速化しており、高齢化の進行や労働力の不足、厳しい財政状況を背景に、地域社会の課題解決においてICTの果たす役割が期待されています。府中市でも光ケーブル整備を行い、市内全域への高速情報通信網の基盤整備が完了しました。

そのため、今後は整備した高速情報通信網を活用し、住民生活・企業活動、企業誘致、交通、観光・農業振興、医療・福祉・介護等、社会経済の様々な分野での活用により、ICT都市ふちゅうの実現に向けた取り組みが求められています。

以上のとおり、府中市を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、都市計画・まちづくりにについても大きな転換期を迎えています。これらのまちづくりの課題に着目し、都市計画マスタープランの見直しを行います。

はじめに

第1章

府中市の現況と課題

第2章

目指すべき都市像

第3章

都市整備の方針

第4章

地域別構想

第5章

実現化方策